

静岡県富士郡芝川町

辻 遺 跡

— 芝川町消防団第1分団詰所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2004年

芝川町教育委員会

例 言

1. 本書は富士郡芝川町下柚野字辻地内に存在する辻遺跡発掘調査の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本調査は芝川町消防団第1分団詰所建設に伴うもので、事業主体者である芝川町長臼井進の委託を受け、県教育委員会文化課指導のもと芝川町教育委員会が調査主体者となり、株式会社東日文化財調査室が調査を実施した。
3. 発掘調査は以下の体制で実施した。

・事業主体者	芝川町	町 長	臼井 進
・事業担当部局	行政課	課 長	深澤 毅
	同	主 幹	大石 新司
・調査主体者	教育委員会	教 育 長	佐野 實
	同	事務局長	遠藤 明男
	同	局長補佐	政野 勝樹
	同	担 当	保竹 貴幸
・指導機関	静岡県教育委員会文化課	課 長	山下 峰雄
	同	担 当	中川 律子
・調査機関	株式会社東日文化財調査室	室 長	小金澤保雄
	同	調 査 員	武田 英俊
4. 現場調査は平成16年1月23日～同年2月17日まで実施した。出土遺物の洗浄・注記等の整理作業、報告書の作成は、現地調査終了後の平成16年2月18日～平成16年3月26日まで実施した。
5. 整理作業、報告書編集は小金澤が中心となり武田・秋山富士子・井倉洋子・小金澤彩可・長谷川順子・渡邊恩の協力を得て行った。
文章担当は () に示した。
6. 現場での調査及び報告書の作成に際して、次の諸氏・機関からご指導、ご協力を賜った。記して感謝の意を表します。(敬称略 順不同)
池谷信之・植松章八・渡井英誉
7. 本調査に係わる発掘調査の記録(図面・写真)及び遺物は芝川町教育委員会で保管している。
8. 調査参加者は次のとおりである。(順不同、敬称略)
測量作業員 殿岡行昌
作業員 斎藤之弘・渋谷政男・田中稔・田中力・渡辺敏雄

1 はじめに

(1)調査に至る経緯

静岡県富士郡芝川町は、富士山の南西側に位置し、山梨県に接している山あいの町である。町の名前の由来ともなった町を南下する芝川沿いには、縄文時代を中心とする遺跡が数多く発見されている。

辻遺跡は町北部の柚野地区にある縄文時代を中心とした遺跡で、町内で唯一弥生時代の遺物が発見された遺跡でもある。周辺からは縄文土器が広範囲で確認されており、かなり大規模な集落遺跡であると思われる。

今回、辻遺跡の包蔵地内で、芝川町消防団第1分団詰所建設の計画が立ち上がり、事業者である芝川町行政課、芝川町教育委員会、静岡県教育委員会文化課で、埋蔵文化財の取扱いについて協議を行った。

その結果、耐震設計の必要上かなり基礎の掘削が深くなることから、建物本体と浄化槽部分の約135㎡について本発掘調査を行うこととなった。

調査は、芝川町教育委員会が調査主体となり、芝川町から委託を受けた埋蔵文化財発掘調査の実績のある民間の専門業者が行うこととなった。

現地や周辺からは縄文土器が数多く表採できることから、かなり多くの遺構・遺物が確認されることが想定された。

(保竹)

2 地理的・歴史的環境

(1)地理的環境

辻遺跡が所在する富士郡芝川町は県の中央部に位置する。南北に長い町域を示しており、町面積は74.18km²を測る。町域の東は富士宮市、南は庵原郡富士川町・由比町、西は静岡市清水・山梨県南巨摩郡南部町・富沢町に接している。

芝川町の地形・地質は富士川の支流稲子川・芝川・稲瀬川(内房川)流域の新第3紀礫岩質からなる天子山系、羽鮒から西山にかけての羽鮒丘陵、天子山系と羽鮒丘陵に挟まれた芝川谷、富士川以南の庵原山地から構成されている。特に羽鮒丘陵は複雑な地形を形づくっており、その基盤は古富士火山泥流で覆われ、地層分類では岩淵火山層・古富士泥流層・別所礫層・河岸段丘に大別される。本遺跡はこの天子山系と羽鮒丘陵に挟まれた芝川谷の標高約198m付近に位置している。

芝川町は富士川・稲子川・芝川・稲瀬川(内房川)等の河川と大小の沢により縦横に分断されている。特に町の中央を富士川が流下しており、地勢は富士川を挟んで北部地域と南部地域に大きく分けられる。今回調査を行った辻遺跡は芝川町の北部地域である下柚野地区字辻地内に所在し、遺跡の南側には富士川の支流である芝川が流下している。この付近の芝川の岩床には侵食により岩床が削り取られて出来たポットホール(甌穴)がある。同地域の西には天子ヶ岳が、東には羽鮒丘陵が広がっており、その間を芝川が流下しており、両側に出来た多くの沢の発達により芝川沿いの平地には水田が広がっている。同地区においても富士山の影響を大きく受けており、本遺跡からも約3,000年前の大沢スコリアの堆積が確認されている。

(2)周辺の遺跡と歴史的環境

芝川町においてこれまで発掘調査が行なわれた例は少なく、昭和27・28年頃から昭和40年代までの踏査によってその多くの遺跡が確認されている。現在芝川町では34ヶ所の遺跡が確認され、内31遺跡が縄文時代の遺跡、また内24遺跡が芝川流域に所在している。今回調査を行った辻遺跡(1)の周辺には定林寺遺跡(2)・中才遺跡(3)・和原遺跡(4)・森林遺跡(5)・猫沢遺跡(6)・東原A遺跡(7)・窪C遺跡(8)・東原B遺跡(9)・大鹿窪遺跡(10)・窪B遺跡(11)・小森遺跡(12)・久保遺跡(13)・踊場A遺跡(14)・踊場B遺跡(15)・小塚A遺跡(16)・小塚B遺跡(17)・下条下垣戸遺跡(18)・東久保遺跡(19)・向ヶ谷戸遺跡(20)等の遺跡が所在している。

定林寺遺跡(2)は縄文時代後期の遺跡で縄文土器・石器、中才遺跡(3)は縄文時代中期の遺跡で縄文時代中期末葉の加曾利E式土器・打製石斧、和原遺跡(4)は縄文時代後期の遺跡で堀之内式から加曾利B式土器、森林遺跡(5)は縄文時代中期の遺跡で中期末葉の加曾利E式土器・打製石斧・石鏃・石皿・磨石、猫沢遺跡(6)は縄文時代中期から後期にかけての遺跡で加曾利EⅠ・EⅡ・EⅢ式土器・堀之内式土器・打製石斧・石匙・石棒、東原A遺跡(7)は縄文時代早期の遺跡で押型文土器が出土した。窪C遺跡(8)は旧石器・縄文・弥生時代以降の複合遺跡で集石遺構・土坑・ピットが検出され、遺物では磨石・石皿が出土した。東原B遺跡(9)は縄文時代中期の遺跡で勝坂式・加曾利E式土器が出土している。また平成13～14年に調査が行なわれた大鹿窪遺跡(10)では縄文時代草創期の竪穴状遺構11基・配石遺構5基・集石遺構11基・土坑10基、縄文時代早期の配石遺構3基が検出された。窪B遺跡(11)は縄文時代の遺跡で集石遺構・土坑・ピットが検出され、遺物では磨石が出土した。小森遺跡(12)は旧石器時代から縄文時代にかけての遺跡でナイフ形石器・有舌尖頭器、久保遺跡(13)は縄文時代後期の遺跡で堀之内式土器・石器、踊場A遺跡(16)は縄文時代の遺跡で縄文土器、踊場B遺跡(15)は縄文時代の遺跡で縄文土器・石鏃・黒曜石が確認されている。小塚A遺跡(14)は旧石器時代～縄文時代の複合遺跡でこれまでに5回の調査が行われている。昭和46年度の第1次調査ではナイフ形石器・船底型石核、平成4年の第3次調査では草創期の細隆起線文土器が尖頭器・有舌尖頭器等の石器と共に出土し、石器製作跡等の遺構も検出され、旧石器時代のナイフ形石器・船底型石核・有舌尖頭器、縄文時代草・前期の土器・石器が検出された。小塚B遺跡(17)、下条下垣戸遺跡(18)は縄文時代早期の遺跡で茅山式土器・石器、東久保遺跡(19)は縄文時代後期の遺跡で縄文土器、向ヶ谷戸遺跡(20)は縄文時代中期の遺跡で加曾利EⅠ・EⅡ・EⅢ式土器・打製石斧・石錘が出土している。

柚野が最初に記録として歴史に登場するのは『和名抄』であると考えられる。そこには富士郡内に平佐加(小坂)という地名が記載されており、『駿河志料』には近世上方荘に保坂郷が所在することを根拠として保坂郷を小坂であると比定している。この小坂は現在の辻・市場一帯を指しているとされる。

この地の古くからの伝承では、治承4年(1180)の源頼朝と平維盛の富士川での戦いで敗れた平家の武者がこの地に落ち延びて来たと言われる。桜峠を挟んで稲子地区には『平家窪、じがい(自害)沢、矢沢等』の地名が残っている。また瀬戸内での合戦で敗れた平維盛が佐野主殿を伴い上稲子に落ち延びて来たという伝承も残されており、西ヶ谷戸には維盛のものと伝えられる墓が残っている。このことから平家とこの地が何らかの関わり合いをもっていたと考えられる。またこの地は交通の要衝であり、当時は大宮から柚野を通り桜峠を越えて稲子、石神峠を経て天子湖の傍を柿本(山梨県南部町)から身延へ至る道が存在しており、駿河と甲斐を結ぶ基幹道であった。

この地が記録として確実に現れるのは、戦国時代の書状である。天文10年10月4日の武田信玄知行充行朱印状に『湯野之内参貫文。きりふとして出置者也』とあるのが初見で、佐野源右衛門尉に当郷内の3貫文の知行を充て行っている(大岩佐野文書/県資料2)。永禄12年12月17日の北条氏政判物では湯野郷が氏政から富士信忠へ充て行われることになっている。(旧大宮司富士家文書/県資料2)。また天正5年閏7月14日には武田家により御宿監物之丞に当郷の3貫200文が充て行われ(旧四和尚宮崎氏文書/県資料2)、天正11年3月5日には徳川家により当郷の50貫文が吉野助左衛門に充て行われている(山本吉野文書/県史料2)。天正18年12月28日の豊臣秀吉朱印状写では、当郷内25斗9升が富士浅間宮本宮神領として安堵されている(旧大宮司富士家文書/県史料2)。近世には下柚野村を含め12ヶ村からなり、下柚野村は旗本石川氏の知行所となった。

(武田・小金澤)

引用・参考文献

小野真一 1990 「小塚遺跡」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)



図2 周辺の遺跡分布図

No.	遺跡名	時代	種別	所在地	遺構・遺物
1	辻	縄文・弥生・古墳	集落跡	下柚野字辻、天神	縄文土器・土師器・須恵器・打製石斧・磨製石斧
2	定林寺	縄文(後)	散布地	上柚野字西村	縄文土器・石器
3	中才	縄文(中)	散布地	上柚野中才	縄文土器・打製石斧
4	和原	縄文(後)	散布地	上柚野字和原	縄文土器
5	森林	縄文(中)	散布地	上柚野字森林	縄文土器・打製石斧・石鏃・石皿・磨石
6	猫沢	縄文(中・後)	散布地	猫沢字上ヶ谷戸	縄文土器・打製石斧・石匙・石棒
7	東原A	縄文(早)	散布地	下柚野字東原	縄文土器
8	窪C	旧石器・縄文・弥生時代以降	集落跡	大鹿窪字窪	集石遺構・土坑・ピット・磨石・石皿
9	東原B	縄文(中)	散布地	下柚野字東原	縄文土器
10	大鹿窪	縄文(草創)・弥生時代以降	集落跡	大鹿窪字新田、東村	竪穴状遺構・土坑・配石遺構・集石遺構・縄文土器
11	窪B	縄文	集落跡	大鹿窪字新田	集石遺構・土坑・ピット・磨石
12	小森	旧石器	散布地	西山字小森	ナイフ形石器・有舌尖頭器
13	久保	縄文(後)	散布地	西山字久保	縄文土器・石器
14	踊場A	縄文	散布地	西山字踊場	縄文土器
15	踊場B	縄文	散布地	西山字踊場	縄文土器・石鏃・黒曜石
16	小塚A	旧石器・縄文(草創・早・前)	散布地	西山字小塚	ナイフ形石器・尖頭器・石核・縄文土器
17	小塚B	縄文(早)	散布地	西山字小塚	縄文土器・石器
18	下条下垣戸	縄文(早)	散布地	西山字下条下垣戸	縄文土器・石器
19	東久保	縄文(後)	散布地	大久保字東久保	縄文土器
20	向ヶ谷戸	縄文(中)	散布地	大久保字向ヶ谷戸	縄文土器・打製石斧・石錘

(静岡県文化財地図1988他)

表1 周辺の遺跡一覧表

静岡県	1990	『静岡県史 資料編1 考古一』
芝川町教育委員会	1972	『駿河小塚』
芝川町教育委員会	1981	『(駿河)小塚遺跡第2次調査報告書』
芝川町教育委員会	1995	『小塚遺跡 金指建設株式会社倉庫建設に伴う埋蔵文化財第3次発掘調査報告書及び芝川町町道改修工事に伴う埋蔵文化財第4次発掘調査報告書』
芝川町教育委員会	1995	『小塚遺跡 個人住宅建設に伴う埋蔵文化財第5次発掘調査報告書』
芝川町教育委員会	2003	『大鹿窪遺跡・窪B遺跡 (遺構編) 一県営中山間地域総合整備事業柚野の里地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』

3 調査の概要

(1)調査の方法と経過

現地調査は平成16年1月23日より同年2月17日まで実施した。調査対象面積は建物の建設部分の135㎡とした。まず重機により表土層下の遺物の有無を確認しながら慎重に第6層の黄褐色スコリア層(以下、大沢スコリア層)上面までの除去を行った後作業員による精査作業を行い、弥生時代以降の遺構および遺物の検出を行った。大沢スコリア層にて検出された遺構の調査終了後、再度重機を用いて大沢スコリア層と無遺物層を除去、作業員による掘り下げを行い、縄文時代の遺構および遺物の検出を行った。なお検出された遺構・遺物の記録作業には『遺跡入力支援システム(トータルステーションシステム)を用いて記録作業の省力化を図った。検出された遺構についてはセクションの実測・写真撮影の後、完掘写真の撮影、遺構の記録作業を行った。

調査の結果、大沢スコリア層において弥生時代以降の土坑およびピットが検出されたが、遺物の出土は認められなかった。また大沢スコリア層下の第10層黄褐色土では縄文時代の柱穴列跡、竪穴状遺構、集石遺構、配石遺構、土坑等の遺構が検出され、第8・9層の遺物包含層では縄文時代の土器、石器等の遺物が数多く出土したほか多数の礫が混在していた。

1月23日（金）

調査区東側が国道に面していることから安全対策のため調査区の周囲にトラロープと工事用バリケードを設置した後、重機による表土剥ぎ作業を開始した。

1月26日（月）

作業員による精査作業を開始する。精査作業を行うと共に調査区東側の国道に面した部分に土嚢を設置して残土流出予防の措置を行った。

1月27日（火）

精査の結果、大沢スコリア層を遺構確認面とする土坑と多数のピット群が検出された。土坑の半截とセクションの写真撮影・実測作業とピットの完掘を行う。

1月28日（水）

土坑の半截を行いセクションの写真撮影・実測作業を行う。セクションの写真撮影および実測の終了した土坑から完掘作業を行う。完掘した土坑については完掘状況の写真撮影を行う。

1月29日（木）

土坑の半截を行いセクションの写真撮影・実測作業を行う。セクションの撮影および実測の終了したものを完掘作業を行う。完掘後、完掘状況の写真撮影を行う。またトータルステーションによる遺構の測量作業を行う。

1月30日（金）

弥生時代以降の完掘状況写真撮影の後、重機による大沢スコリア層と無遺物層の剥ぎ取り作業を行う。

2月3日（火）

遺物包含層の掘り下げを行う。

2月4日（水）

遺物包含層の掘り下げを行う。遺物包含層内には遺物のほか自然礫が多く含まれている。

2月5日（木）

遺物包含層の掘り下げを行う。

2月6日（金）

遺物包含層の掘り下げを行う。

2月9日（月）

遺物包含層の掘り下げを行うと共にトータルステーションによる遺物の取り上げ、調査区および周辺の地形測量を行う。

2月10日（火）

遺構精査作業を行う。また検出された配石遺構、集石遺構の実測および写真撮影を行う。また遺物出土状況の写真撮影を行う。

2月12日（木）

遺構精査作業を行う。配石遺構の実測および写真撮影を行う。

2月13日（金）

遺構精査作業を行う。集石遺構の写真撮影を行う。

2月14日（土）

遺構精査作業を行うと共に調査区西側部分にて検出された柱穴列跡の掘り下げを行う。調査区北壁にて土層堆積状況の実測作業を行う。

2月16日（月）

遺構精査作業を行う。調査区南西部にて検出された竪穴状遺構および土坑の掘り下げと遺構の完掘写真撮影を行う。トータルステーションにより撮影の終了した遺構と遺物の取り上げ、調査区東壁の土層堆積状況の入力作業を行う。

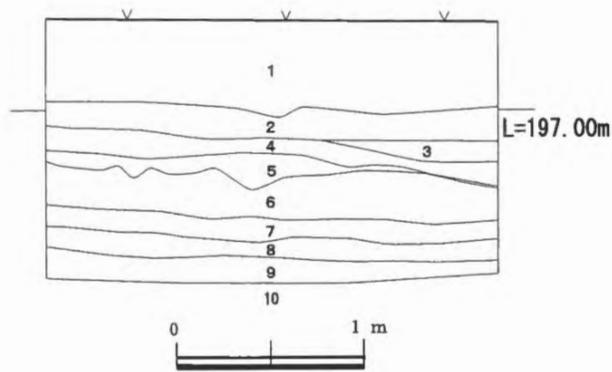


図4 基本土層図

土の締まり・粘性は共に強く赤褐色スコリア粒、砂をやや含む。2層より色調が濃くなり粘性も強い。

第4層 黒褐色土

土の締まりは強いが粘性はやや弱い。細かい赤褐色スコリア粒を多く含む。

第5層 暗褐色土

土の締まり・粘性は共に弱い。層内に細かい赤褐色スコリア粒を多く含む。

第6層 黄褐色スコリア層（大沢スコリア層・弥生時代以降遺構確認面）

締まりは非常に強いが粘性はない。層内に細かい赤褐色スコリア粒を含む。

本層を弥生時代以降の遺構確認面として多数の土坑、ピット群が検出された。

第7層 黒色土

土の締まり・粘性は共にやや強い。層内に粒径3～20mmの小石、砂、礫を多く含む。

第8層 暗褐色土（遺物包含層）

土の締まり・粘性は共にやや強い。層内に粒径3～20mmの小石を多く含み、また円礫、割石も多く含む。

第9層 明褐色土（遺物包含層）

土の締まり・粘性は共に強い。粒径5～10mmの小石を多く含み、また円礫、割石もやや含む。

第10層 黄褐色土（遺構確認面）

土の締まり・粘性は共に強い。層内に2～10mmの小石を含む。本層を縄文時代の遺構確認面として柱穴列跡、竪穴状遺構、土坑、集石遺構、配石遺構が検出された。

(武田・小金澤)

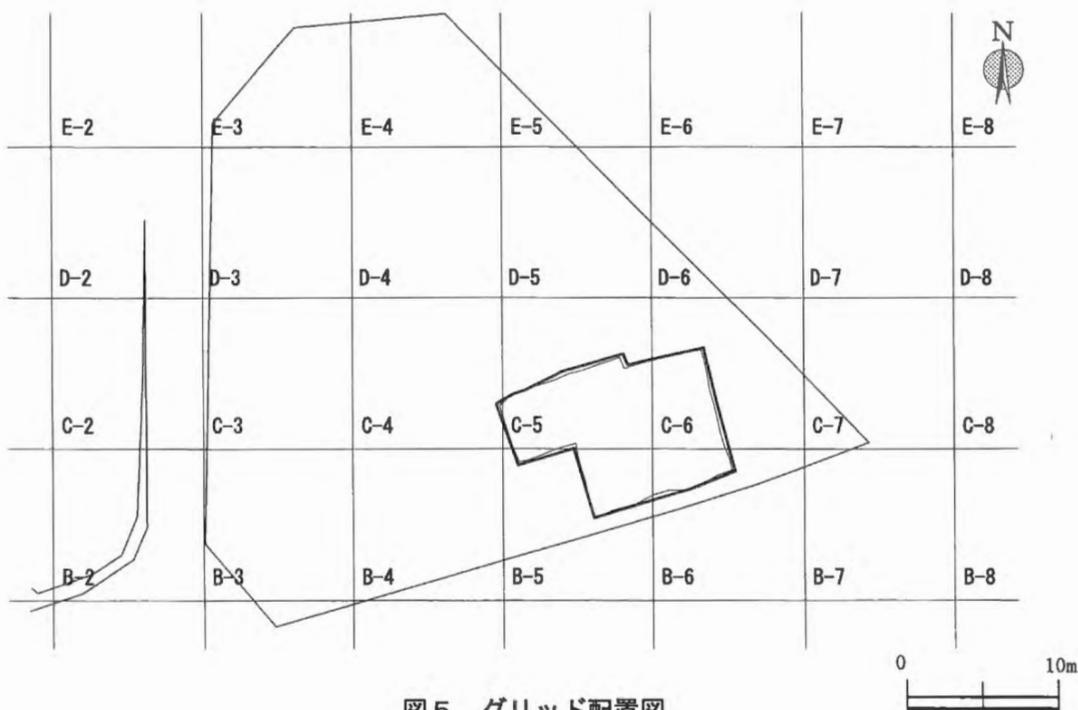


図5 グリッド配置図

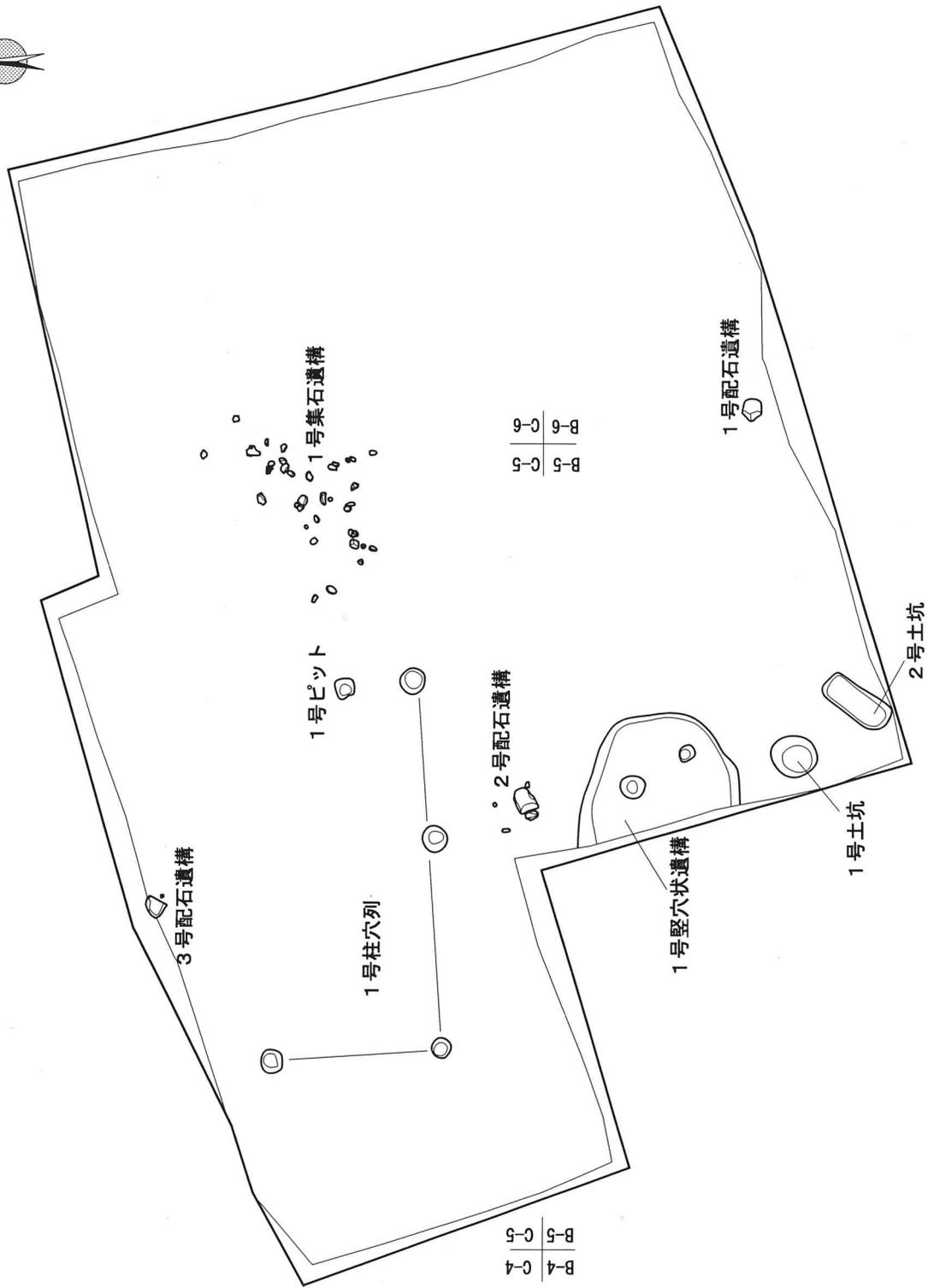
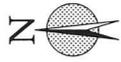


図6 縄文時代 遺構全体図

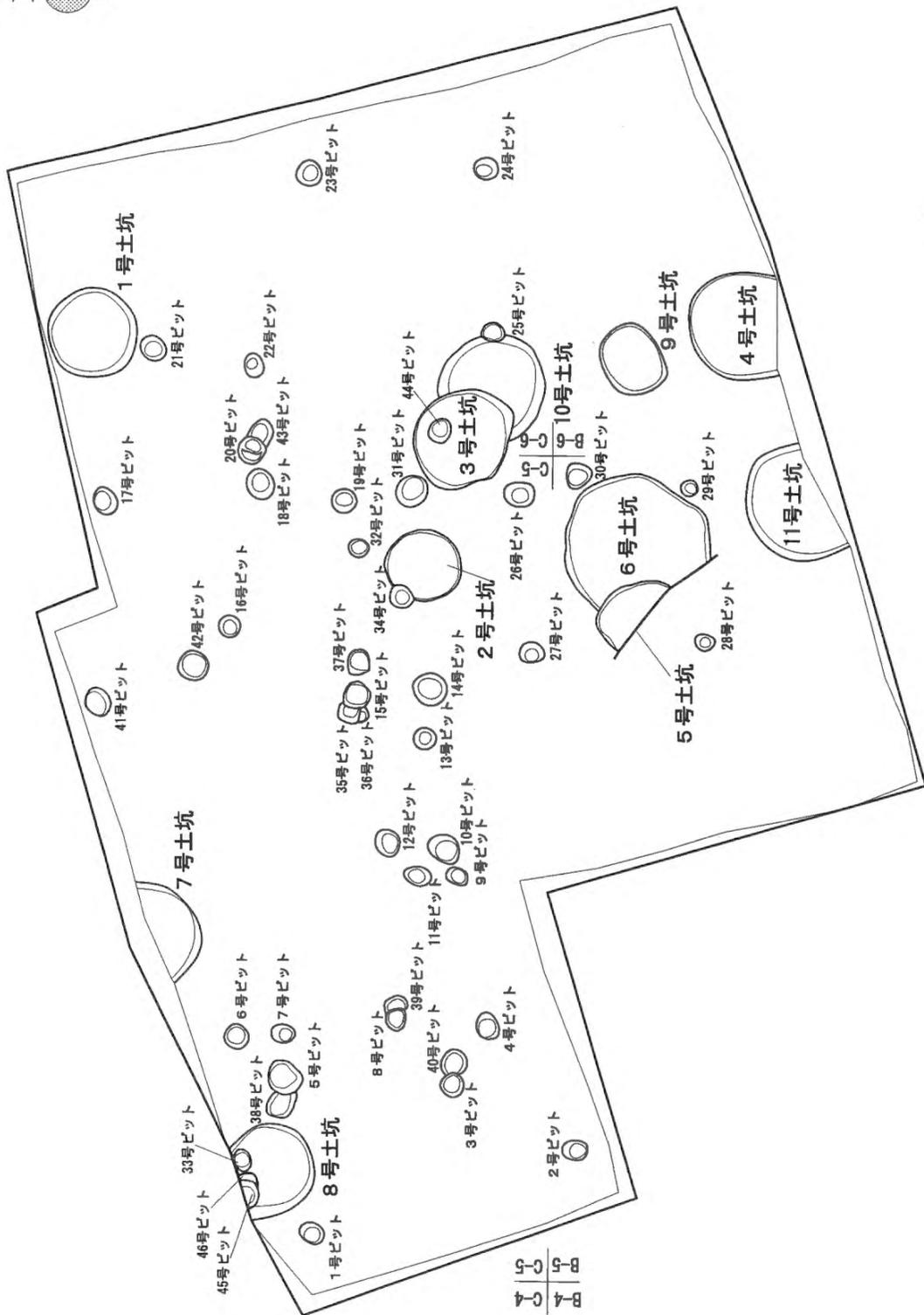
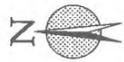


図7 弥生時代以降 遺構全体図

4 調査の結果

(1)遺 構

今回の調査では縄文時代の柱穴列跡が1基、竪穴状遺構1基、集石遺構1基、配石遺構3基、土坑2基、ピット1基と弥生時代以降の土坑11基、ピット46基が検出された。縄文時代の各遺構は調査区の中央から北西側にかけての地山層にて検出され、また多くの遺物が出土した。

弥生時代以降の土坑、ピットは大沢スコリア層を掘り込んで構築されており遺構の分布は調査区全域におよんでいたが遺構内に遺物は僅かな出土であった。縄文時代及び弥生時代以降のどちらの遺構も北西から南東に向かって緩やかに地形が下がる緩斜面に構築されている。

縄文時代

柱穴列跡

1号柱穴列跡（図8・表2）

調査区西側にて検出された。柱穴は4基検出され、東西方向が約4.6m、南北方向が約2.1mを測り、長軸の方位はE-4°-Nを指向する。P1・P2間は2.1m、P2・P3間は2.6m、P3・P4間は2.0mを測る。南北方向は柱間の距離からみて調査区の外へと延びていると思われる。北東側は近年の削平により消滅したと考えられる。

各柱穴内からは遺物の出土はなかった。

竪穴状遺構

1号竪穴状遺構（図9）

調査区南西側にて検出された。西側は調査区の外へと広がっているため、その全体像は確認出来なかった。現況で平面形態は不整楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、規模は長さ2.22m、深さ11cmを測る。

遺構内にて2基のピット（P1、P2）が検出された。P1は遺構内の北側に位置し平面形態は楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、規模は32×29cm、深さ8cmを測る。P2は遺構内の東南側に位置し平面形態は長楕円形、断面形態は上に開くU字状を呈し、規模は23×18cm、深さ18cmを測る。

縄文土器・敲石等の遺物が出土した。

配石遺構

1号配石遺構（図10）

調査区南壁付近にて検出された。中央に大型の石皿を配している。石皿は扁平な石を用いており石の半分は欠損し、中央部分は使用により磨滅している。石皿の周囲からは角礫・割れた敲石が出土した。

2号配石遺構（図10）

調査区西壁付近にて検出された。中央に大型の石皿を配している。石皿の中央部分は使用によりかなり磨滅している。石皿の周囲からは磨石・打製石斧・割れた敲石等が出土した。

3号配石遺構（図10）

調査区北壁付近にて検出された。中央に大型の石皿を配している。石皿の半分と側縁部分が欠損し、中央部分は使用により磨滅している。

集石遺構

1号集石遺構（図11）

調査区中央にて検出された。北東から南西へとやや散漫なひろがりを見せ、範囲は長軸2.1m、短軸1.6cmを測り、長軸方向はN-39°-Eを指向する。

縄文土器・石棒・敲石等が出土した他、使用されて欠損した礫も多数出土した。

土坑 (図12・表3)

1号土坑

調査区南側にて検出された。平面形態は楕円形、断面形態は深い上に開くU字状を呈し、規模は58×50cm、深さ28cmを測る。

縄文土器・敲石等が出土した。

2号土坑

調査区南側にて検出され、北側に1号土坑が近接する。平面形態は隅丸の長方形、断面形態は浅い逆台形状を呈し、規模は58×50cm、深さ10cmを測る。

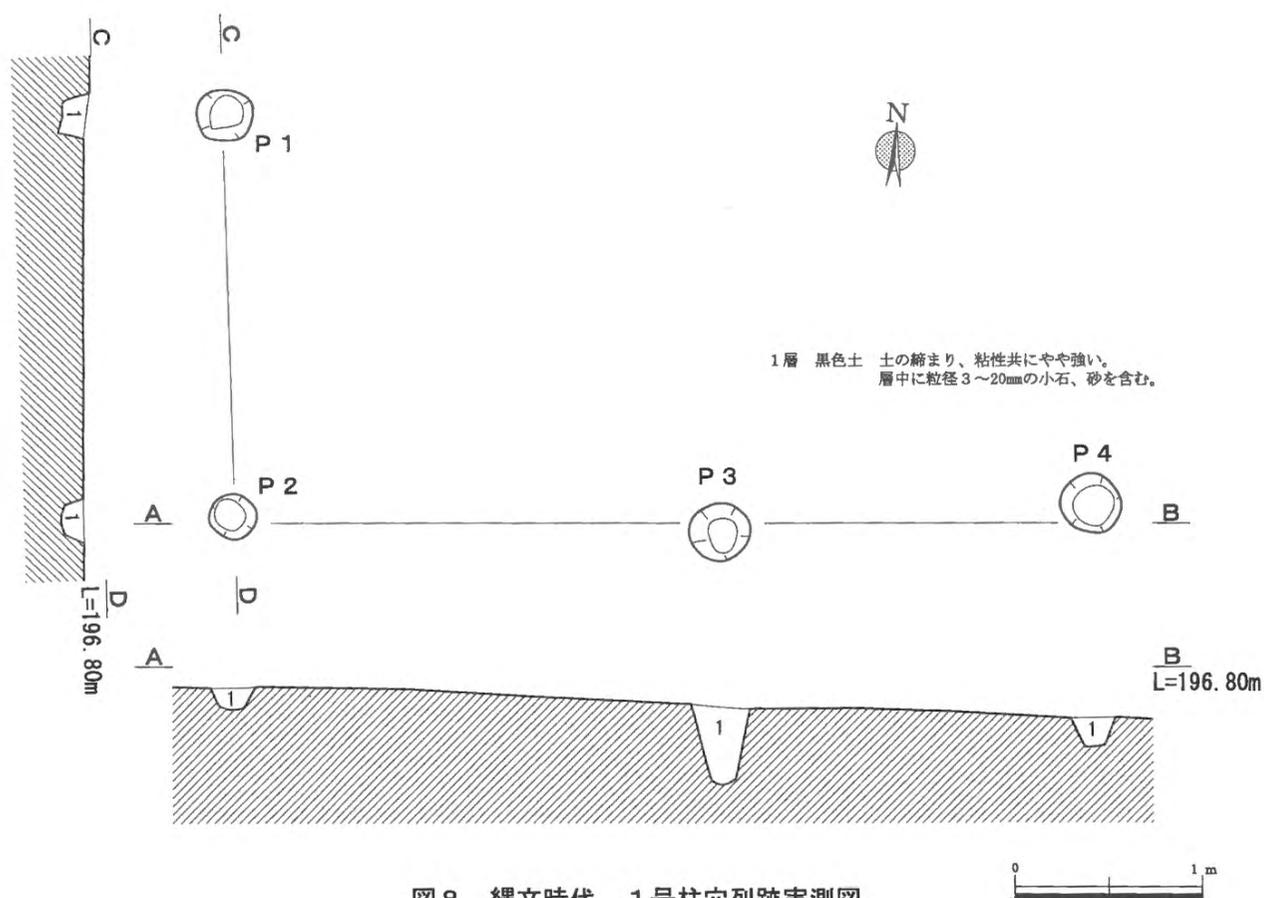


図8 縄文時代 1号柱穴列跡実測図

遺構名	遺構 確認面	大きさ(m)			標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
		長径	短径	深さ				
1号柱穴列P1	8層	0.30	0.26	0.12	196.7	楕円形	上に開く浅いU字状	
1号柱穴列P2	8層	0.24	0.20	0.20	196.7	楕円形	上に開く浅いU字状	
1号柱穴列P3	8層	0.32	0.30	0.40	196.5	楕円形	上に開く深いU字状	
1号柱穴列P4	8層	0.32	0.30	0.16	196.5	楕円形	上に開く浅いU字状	

表2 縄文時代 1号柱穴列跡計測表

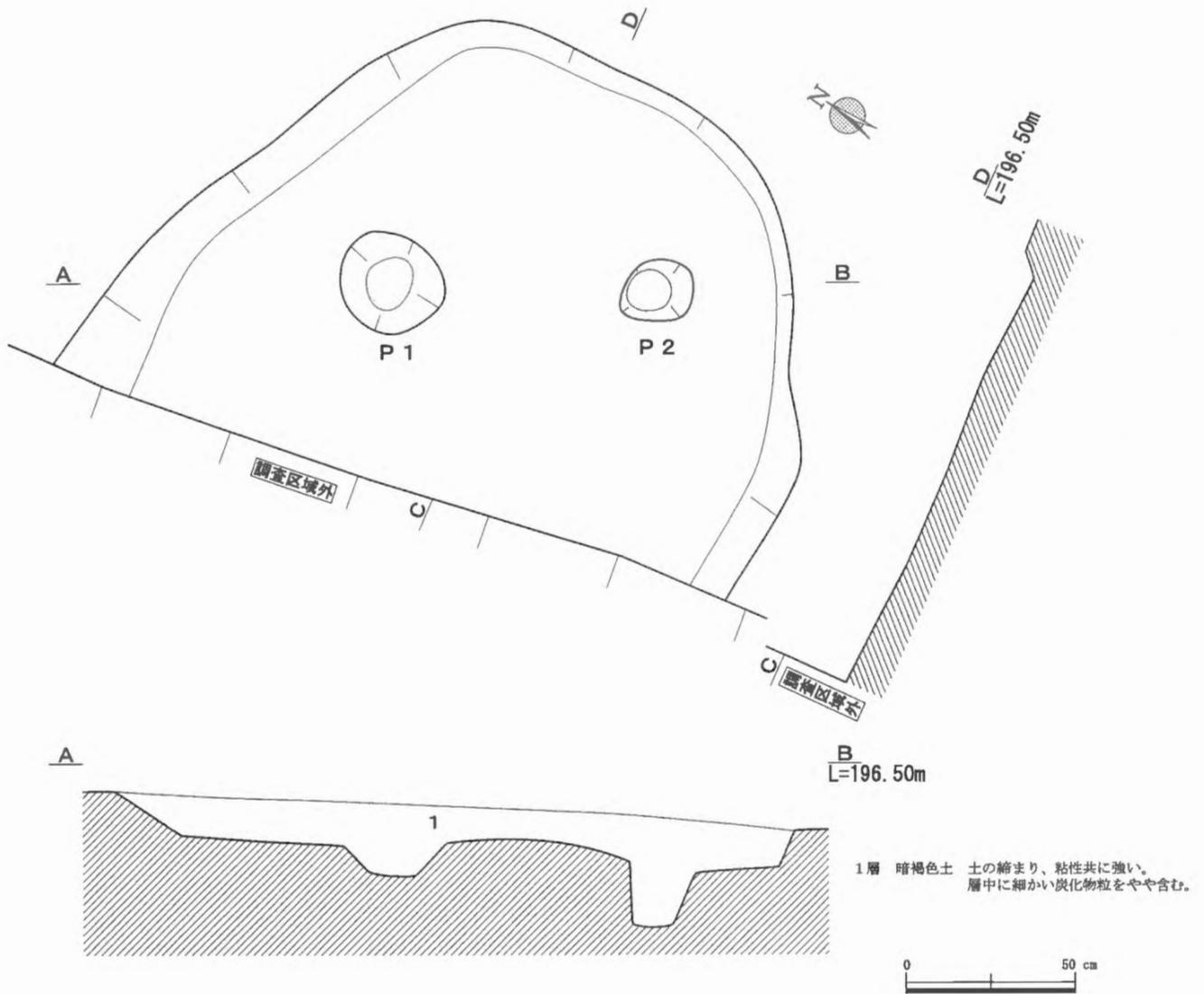


図9 縄文時代 1号竖穴状遺構実測図

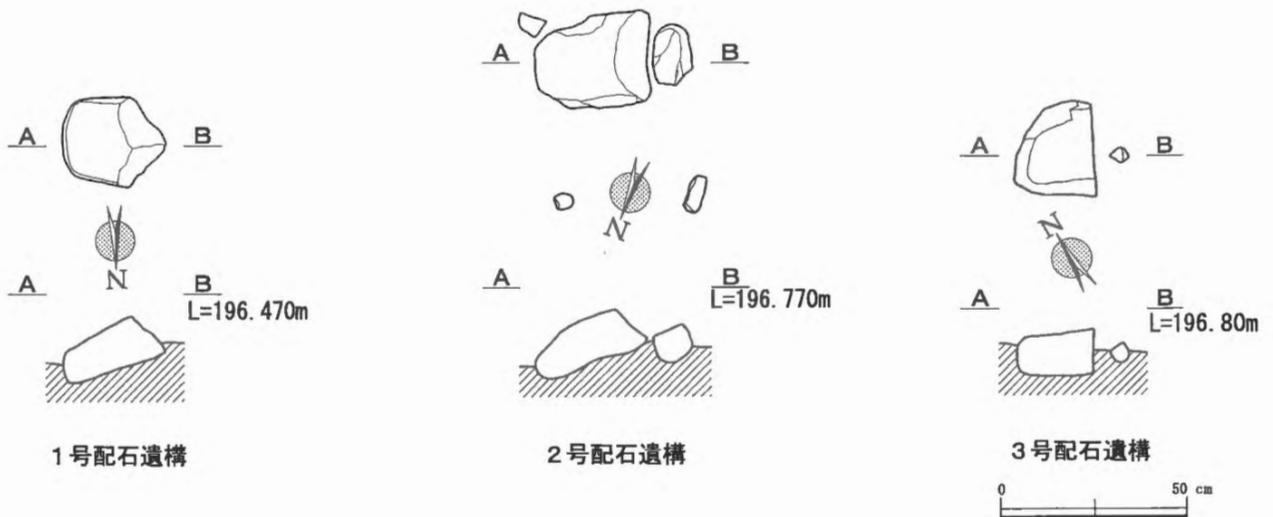


図10 縄文時代 1～3号配石遺構実測図

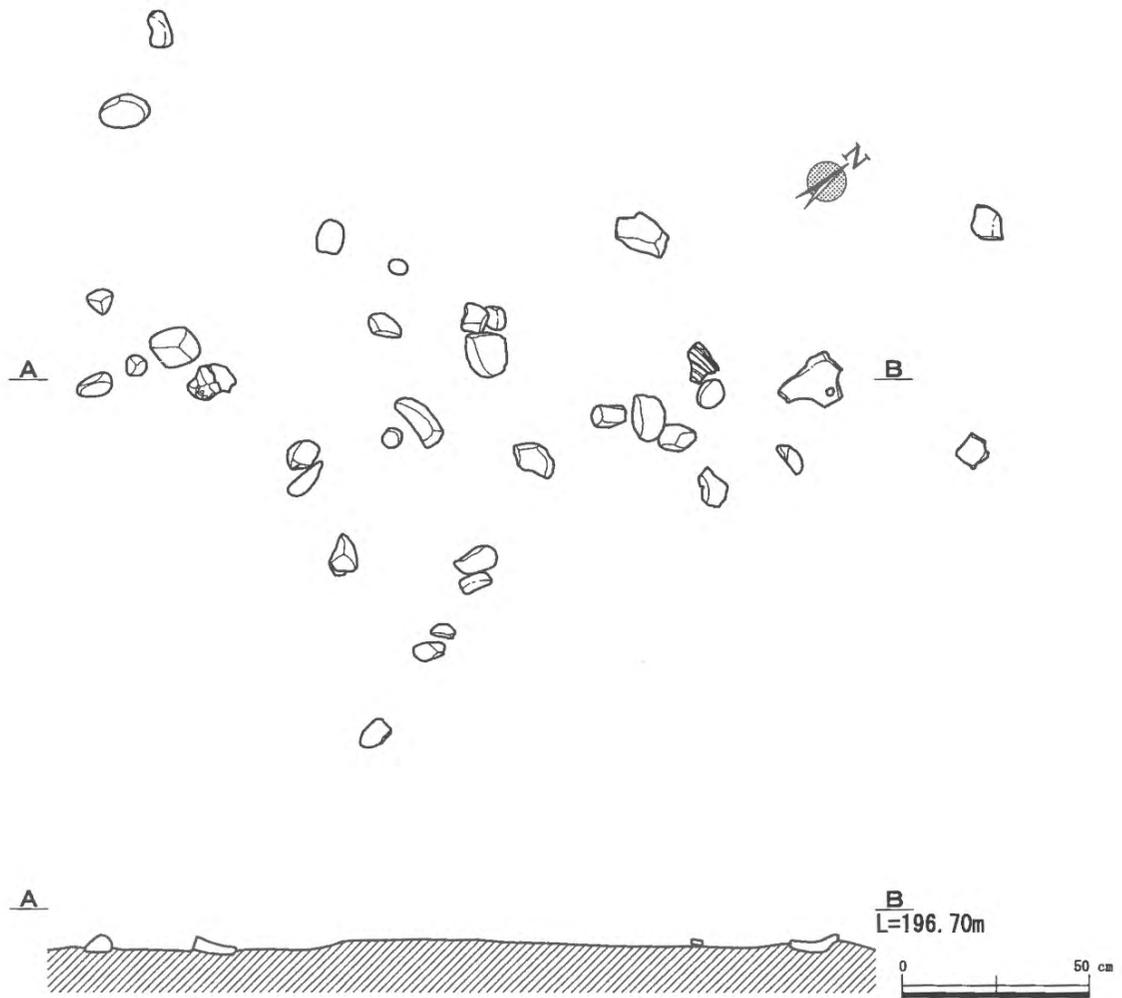


図11 縄文時代 1号集石遺構実測図

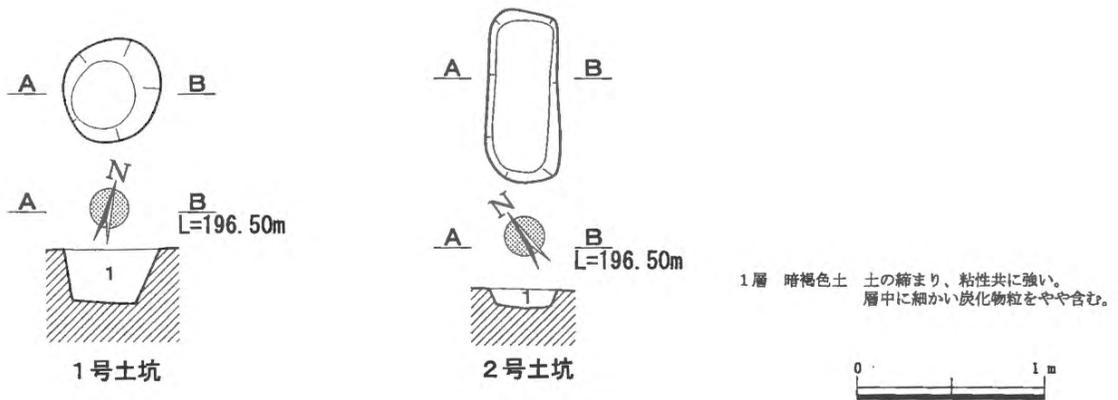


図12 縄文時代 1・2号土坑実測図

遺構名	遺構 確認面	大きさ(m)			主軸方位 (長軸)	標高 (m)	平面形態	断面形態	備考
		長径	短径	深さ					
1号土坑	9層	0.58	0.50	0.28	-	196.3	楕円形	深い上に開くU字状	
2号土坑	9層	0.92	0.38	0.10	-	196.2	隅丸長方形	浅い逆台形状	

表3 縄文時代 土坑計測表

弥生時代以降

土坑 (図13~図14・表4)

1号土坑

調査区北側にて検出された。平面形態は楕円形、断面形態は逆台形状を呈し、規模は110×108cm、深さ18cmを測る。

2号土坑

調査区中央にて34号ピットと切り合うかたちで検出された。平面形態は楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、規模は92×84cm、深さ7cmを測る。

3号土坑

調査区中央にて10号土坑・44号ピットと切り合うかたちで検出された。平面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形状を呈し、規模は131×110cm、深さ18cmを測る。

4号土坑

調査区南側にて検出された。南側は調査区外に位置している。現況で平面形態は長楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、長さ143cm、深さ4cmを測る。

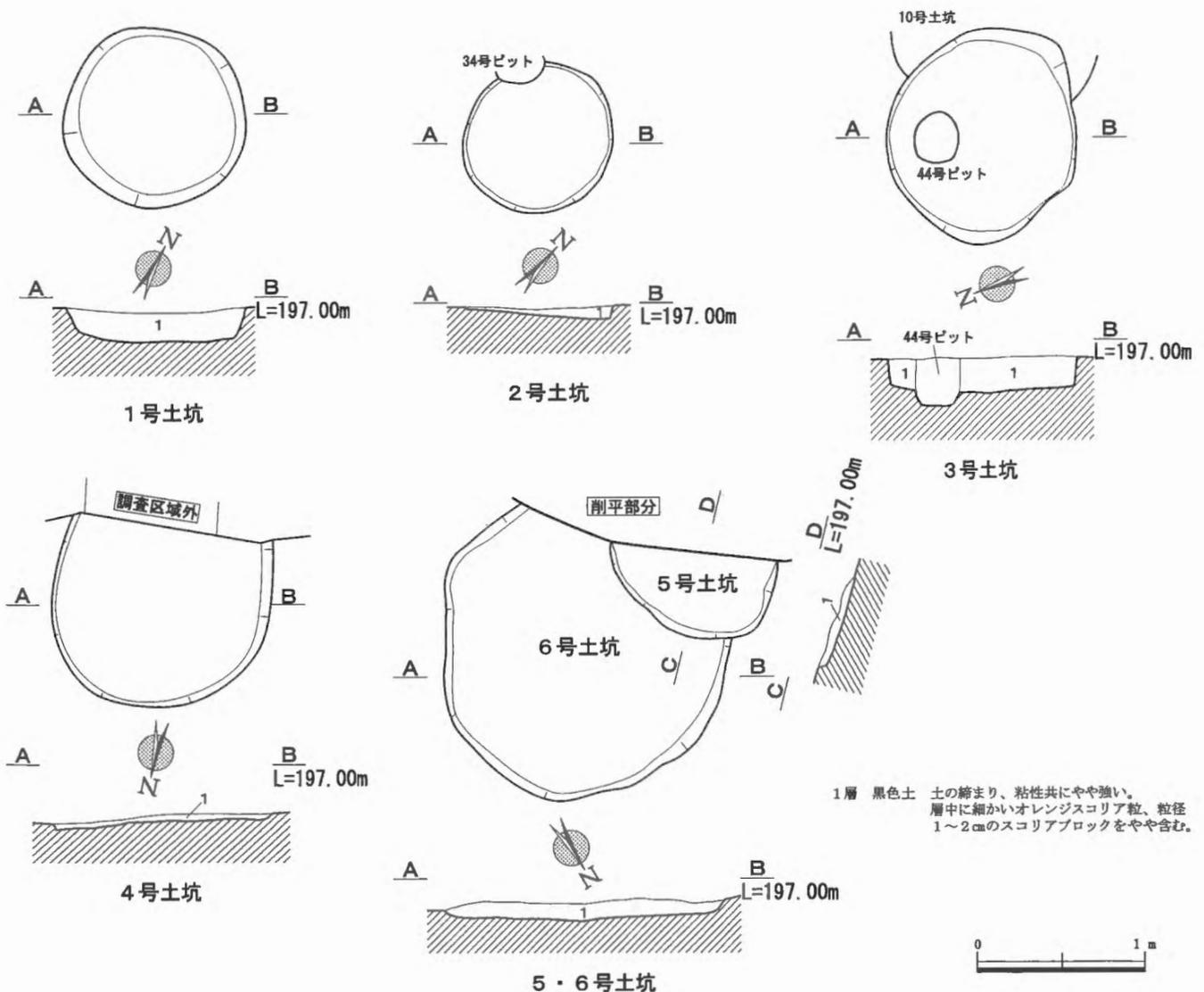


図13 弥生時代以降 1~6号土坑実測図

5号土坑

調査区中央やや南側にて6号土坑を切るかたちで検出された。南西側は削平されており消滅している。現況で平面形態は不整楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、長さ120cm、深さ4cmを測る。

6号土坑

調査区南側にて5号土坑と切り合うかたちで検出された。土坑の南西側は削平されており消滅している。現況で平面形態は不整楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、長さ180cm、深さ10cmを測る。

7号土坑

調査区北側にて検出された。北側は調査区外に位置している。現況で平面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形状を呈し、長さ120cm、深さ36cmを測る。

8号土坑

調査区北側にて33・45・46号ピットと切り合うかたちで検出された。北側は調査区外に位置している。現況で平面形態は楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、長さ122cm、深さ6cmを測る。

9号土坑

調査区南東側にて検出された。平面形態は楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、規模は88×71cm、深さ6cmを測る。

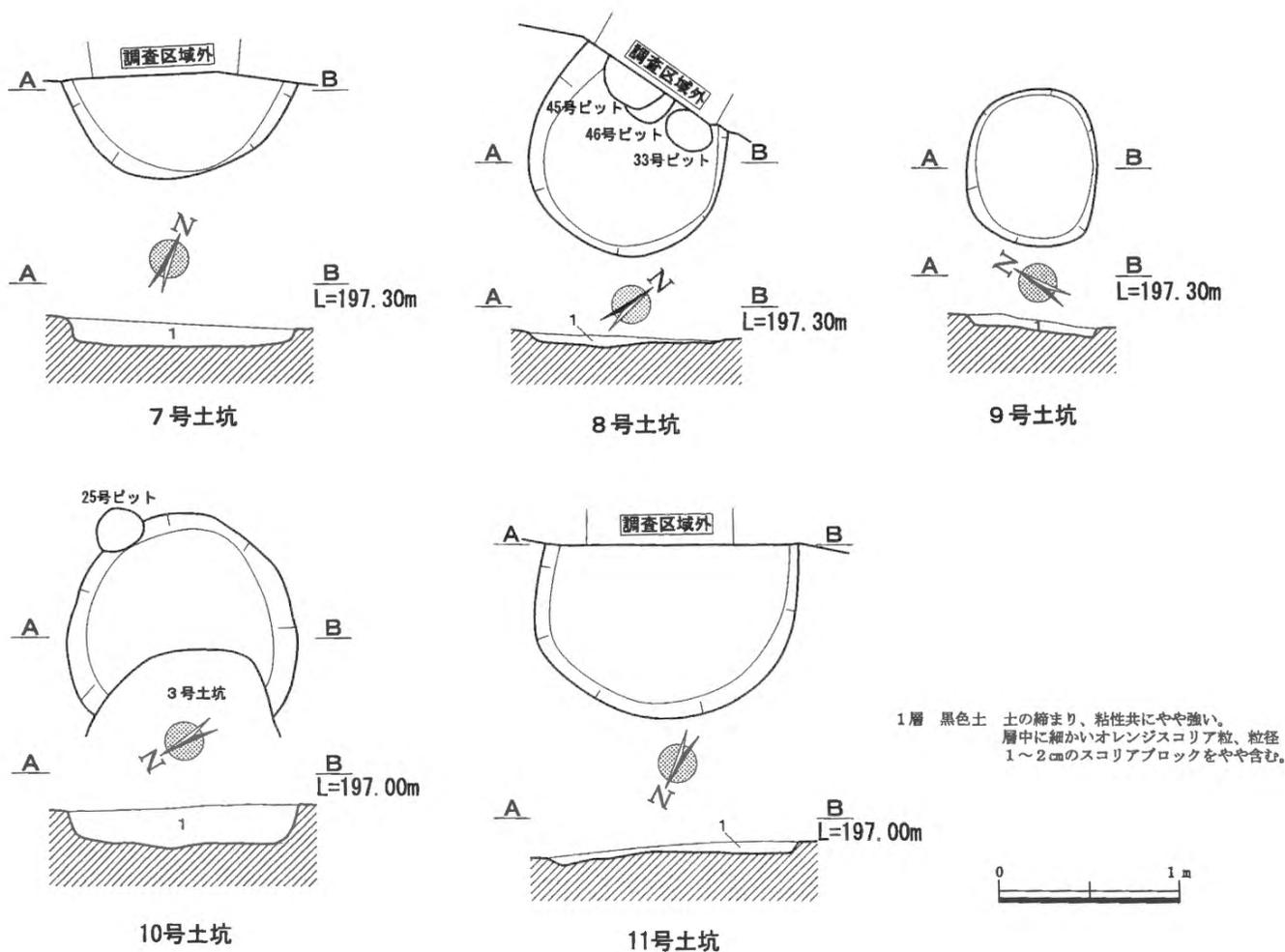


図14 弥生時代以降 7～11号土坑実測図

遺構名	遺構確認面	大きさ(m)			標高(m)	平面形態	断面形態	備考
		長径	短径	深さ				
1号土坑	大沢スコリア	1.10	1.08	0.18	196.95	楕円形	逆台形状	
2号土坑	大沢スコリア	0.92	0.84	0.07	196.98	楕円形	浅い皿状	34号ピットと切り合い
3号土坑	大沢スコリア	1.31	1.10	0.18	196.90	不整楕円形	逆台形状	10号土坑・44号ピットと切り合い
4号土坑	大沢スコリア	(1.43)	(1.30)	0.04	196.71	長楕円形	浅い皿状	一部未検出
5号土坑	大沢スコリア	(1.20)	(0.82)	0.04	196.84	不整楕円形	浅い皿状	6号土坑と切り合い
6号土坑	大沢スコリア	(1.80)	(1.70)	0.10	196.88	不整楕円形	浅い皿状	5号土坑と切り合い
7号土坑	大沢スコリア	(1.32)	-	0.11	197.11	不整楕円形	逆台形状	一部未検出
8号土坑	大沢スコリア	(1.22)	(1.08)	0.06	197.16	楕円形	浅い皿状	一部未検出・33・45・46号ピットと切り合い
9号土坑	大沢スコリア	0.88	0.71	0.06	197.10	円形	浅い皿状	
10号土坑	大沢スコリア	(1.28)	(1.23)	0.21	196.83	楕円形	逆台形状	3号土坑・25ピットと切り合い
11号土坑	大沢スコリア	(1.52)	(1.42)	0.06	196.88	不整円形	浅い皿状	一部未検出

表4 弥生時代以降 土坑計測表

10号土坑

調査区中央付近にて3号土坑・25号ピットと切り合うかたちで検出された。西側は3号土坑に、東側は25号ピットに切られている。現況で平面形態は楕円形、断面形態は逆台形状を呈し、長さ128cm、深さ21cmを測る。遺物は土師質土器が出土した。

11号土坑

調査区南側にて検出された。南側は調査区外に位置している。現況で平面形態は不整楕円形、断面形態は浅い皿状を呈し、長さ152cm、深さ7cmを測る。

ピット (図7・表5)

調査区全域にて46基が検出され、いずれも長径20～30cmの規模で土坑と同様に調査区中央付近に纏まりを見せる。いくつかは土坑を切っており、土坑との構築時期に時期差があると考えられる。平面形態は円形・楕円形・不整形に分類され、覆土は黒色土・明黒色土(Ⅱ)の2種類に分けられる。

(小金澤・武田)

(2)遺物 (図14～21・表6)

縄文時代

石器

石鏃

1・2は黒曜石製の石鏃である。1は基部の抉りの浅い平面形態が二等辺三角形を呈する。2は規模の抉りの深い長脚鏃で丁寧な側縁部の調整が施され、平面形態が正三角形を呈する。

石皿

3～8は石皿である。3・5は平面形態が楕円形を呈し、表面を磨り面として浅く凹ませている。4は球形の割れた石の割れ口を磨り面として利用し凹ませている。6は1号配石遺構の石皿で約1/2が残存しており、表面の磨り面はやや凹んでいる。7は2号配石遺構の石皿でほぼ完形、表面の磨り面は良く凹んでいる。8は3号配石遺構の石皿で約1/2が残存しており、表面の磨り面はやや凹んでいる。

磨石・敲石

9～15が磨石・敲石である。9は1号集石遺構出土で平面形態が楕円形の左側面の一部が欠損し、表面は磨られやや凹、右側面は磨りと敲き痕がある。10は平面形態がほぼ円形で側面に磨りがある。11は平面形態が楕円形で全体に磨られ端部に敲き痕がある。12は平面形態が不整形な円形で表面が磨られてやや凹がある。13は平面形態が楕円形で先端部が欠損しており、両面に磨りと敲き痕がある。14は平面形態が楕円形で全体に磨られており表面はやや凹がある。15は平面形態が楕円形の扁平な礫岩で先端部に刃部状となる。

遺構名	遺構確認面	大きさ(m)			標高(m)	平面形態	備考
		長径	短径	深さ			
1号ピット	大沢スコリア	0.31	0.29	0.20	197.18	不整楕円形	
2号ピット	大沢スコリア	0.32	0.24	0.23	196.94	不整楕円形	
3号ピット	大沢スコリア	0.30	0.28	-	-	不整形	40号ピットと切り合い
4号ピット	大沢スコリア	0.33	0.26	0.21	196.96	不整楕円形	
5号ピット	大沢スコリア	0.42	0.39	-	-	不整形	38号ピットと切り合い
6号ピット	大沢スコリア	0.32	0.29	0.19	197.13	円形	
7号ピット	大沢スコリア	0.29	0.22	0.28	197.12	不整楕円形	
8号ピット	大沢スコリア	0.28	0.24	-	-	不整楕円形	39号ピットと切り合い
9号ピット	大沢スコリア	0.27	0.19	0.19	196.91	不整形	
10号ピット	大沢スコリア	0.41	0.33	0.36	196.32	不整楕円形	
11号ピット	大沢スコリア	0.34	0.23	0.25	196.98	不整楕円形	
12号ピット	大沢スコリア	0.35	0.30	0.28	196.92	不整楕円形	
13号ピット	大沢スコリア	0.28	0.22	0.26	196.96	円形	
14号ピット	大沢スコリア	0.42	0.39	0.29	196.97	円形	
15号ピット	大沢スコリア	0.36	0.32	-	-	不整形	35・36号ピットと切り合い
16号ピット	大沢スコリア	0.27	0.26	0.10	196.94	円形	
17号ピット	大沢スコリア	0.33	0.27	0.29	197.02	不整楕円形	
18号ピット	大沢スコリア	0.37	0.34	0.34	196.94	円形	
19号ピット	大沢スコリア	0.31	0.30	-	-	円形	
20号ピット	大沢スコリア	0.35	0.32	-	-	不整形	43号ピットと切り合い
21号ピット	大沢スコリア	0.33	0.28	0.23	196.91	楕円形	
22号ピット	大沢スコリア	0.28	0.24	0.27	196.89	楕円形	
23号ピット	大沢スコリア	0.31	0.30	0.22	196.82	円形	
24号ピット	大沢スコリア	0.30	0.22	0.08	196.70	楕円形	
25号ピット	大沢スコリア	0.28	0.23	0.07	196.75	不整形	10号土坑と切り合い
26号ピット	大沢スコリア	0.36	0.30	0.27	196.91	楕円形	
27号ピット	大沢スコリア	0.30	0.25	0.24	196.95	不整楕円形	
28号ピット	大沢スコリア	0.24	0.20	0.07	196.74	不整楕円形	
29号ピット	大沢スコリア	0.21	0.19	0.07	196.79	不整形	
30号ピット	大沢スコリア	0.33	0.28	0.16	196.89	不整形	
31号ピット	大沢スコリア	0.41	0.37	0.38	196.94	楕円形	
32号ピット	大沢スコリア	0.26	0.23	0.11	196.96	楕円形	
33号ピット	大沢スコリア	0.28	(0.22)	-	-	(不整楕円形)	一部未検出、8号土坑と切り合い
34号ピット	大沢スコリア	0.29	0.26	0.21	196.97	不整形	2号土坑と切り合い
35号ピット	大沢スコリア	(0.31)	0.29	-	-	-	36号ピットと切り合い
36号ピット	大沢スコリア	(0.21)	(0.19)	-	-	-	35号ピットと切り合い
37号ピット	大沢スコリア	0.33	0.27	-	-	不整形	
38号ピット	大沢スコリア	(0.44)	0.30	-	-	(不整楕円形)	5号ピットと切り合い
39号ピット	大沢スコリア	(0.30)	(0.22)	0.13	196.96	(不整楕円形)	8号ピットと切り合い
40号ピット	大沢スコリア	(0.34)	0.30	-	-	(不整形)	3号ピットと切り合い
41号ピット	大沢スコリア	0.36	0.29	0.30	197.06	不整楕円形	
42号ピット	大沢スコリア	0.37	0.36	0.16	196.97	円形	
43号ピット	大沢スコリア	(0.35)	0.29	-	-	-	20号ピットと切り合い
44号ピット	大沢スコリア	0.30	0.26	0.13	196.69	不整形	3号土坑と切り合い
45号ピット	大沢スコリア	(0.36)	-	-	-	-	一部未検出、8号土坑・46号ピットと切り合い
46号ピット	大沢スコリア	(0.27)	-	-	-	-	一部未検出、8号土坑・45号ピットと切り合い

表5 弥生時代以降 ピット計測表

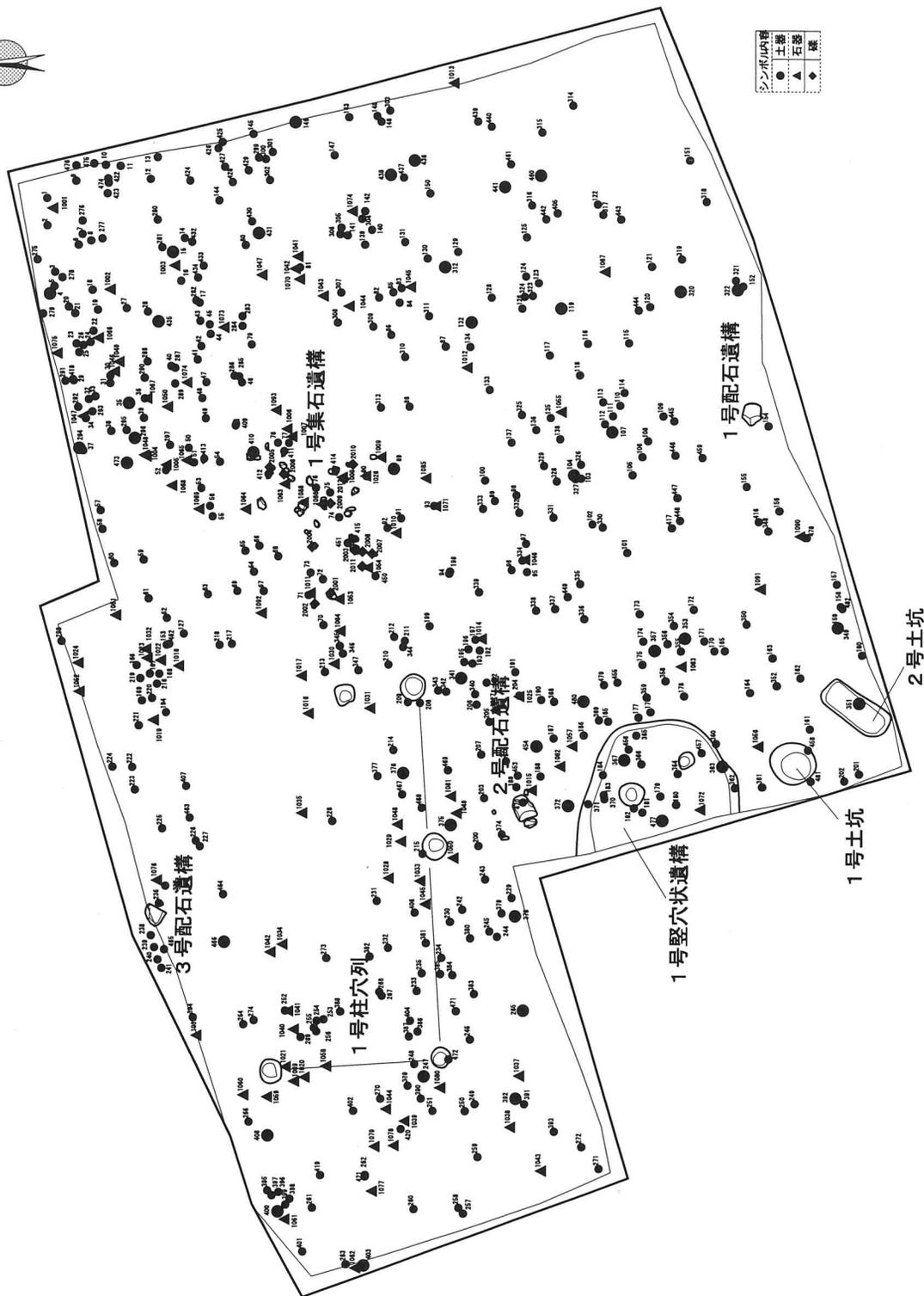
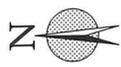


図15 縄文時代 遺物出土状況・分布図

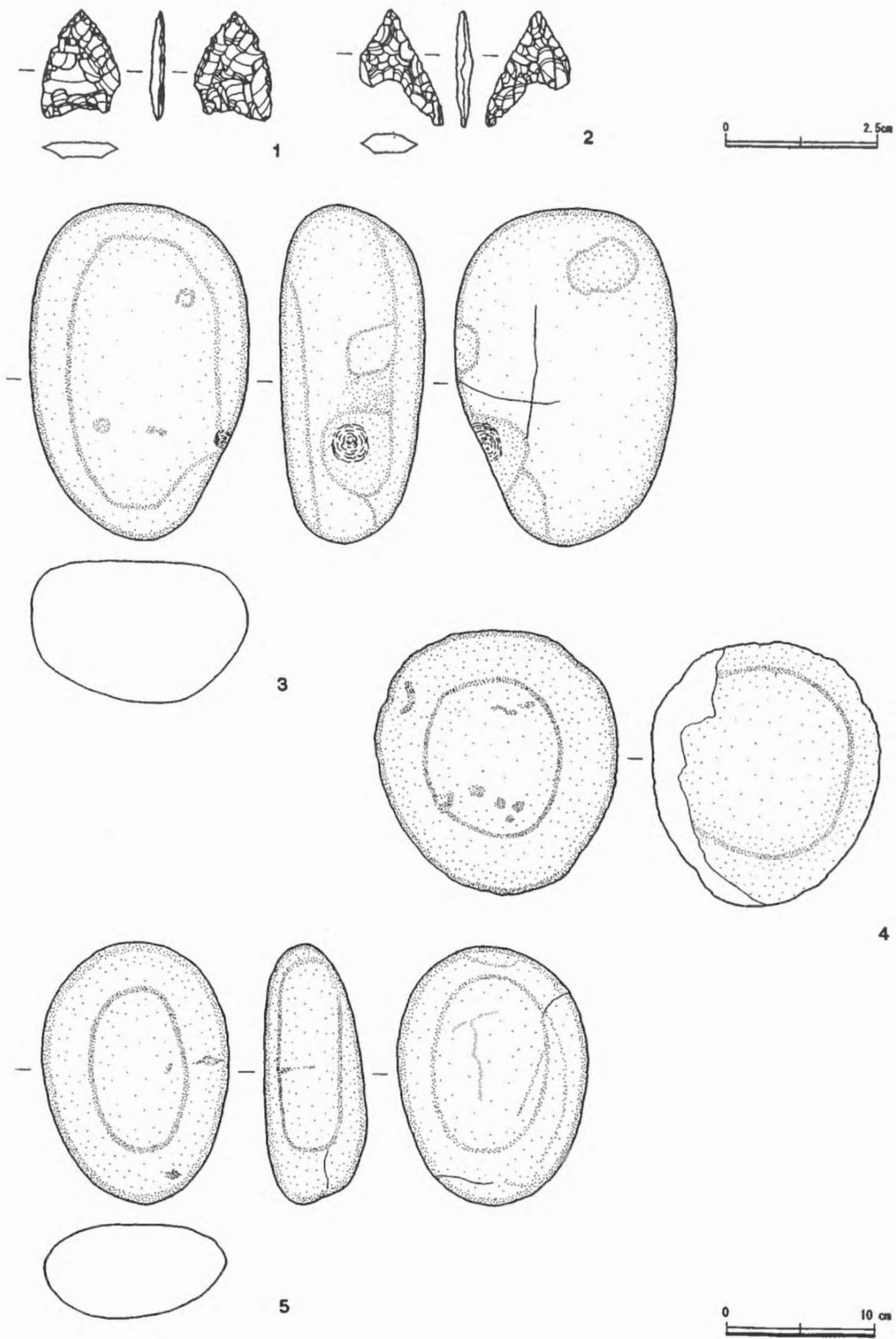
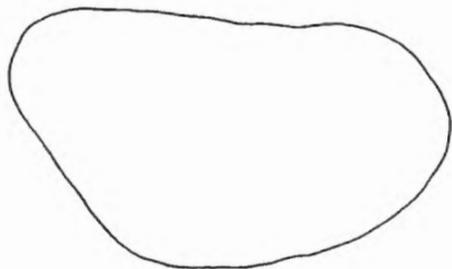
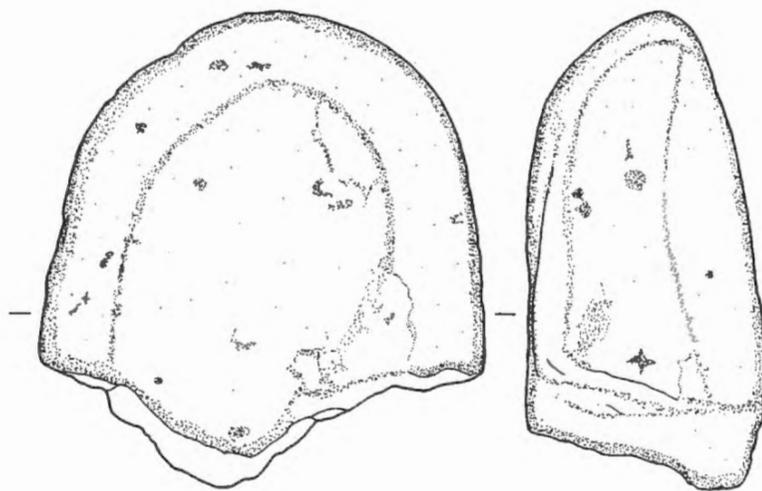
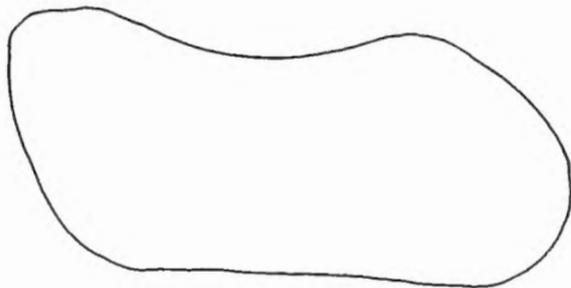
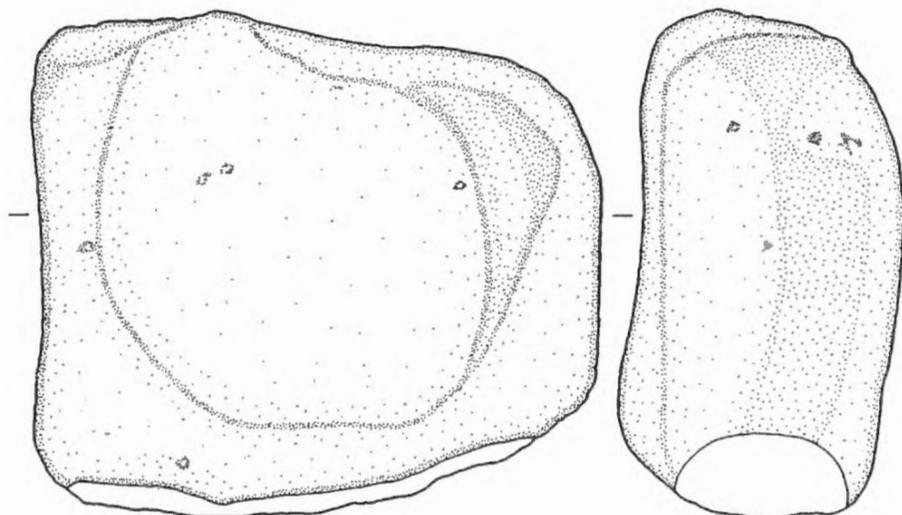


图 16 縄文時代 石器実測図 (1)



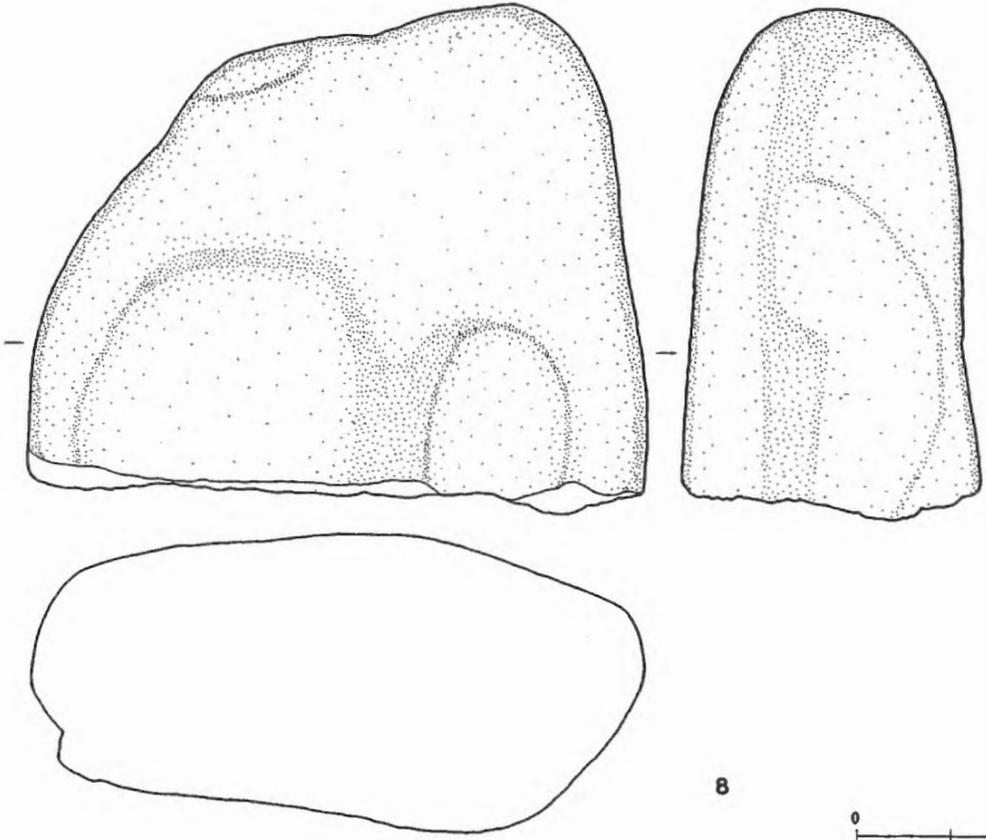
6



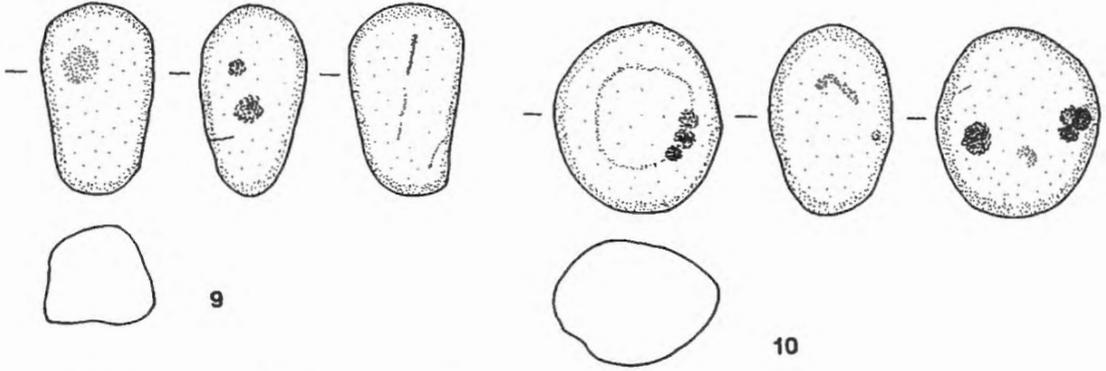
7



図17 縄文時代 石器実測図(2)

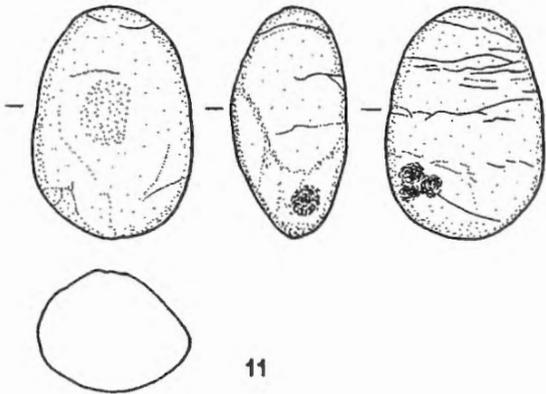


8



9

10



11

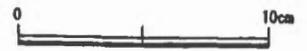


図18 縄文時代 石器実測図(3)

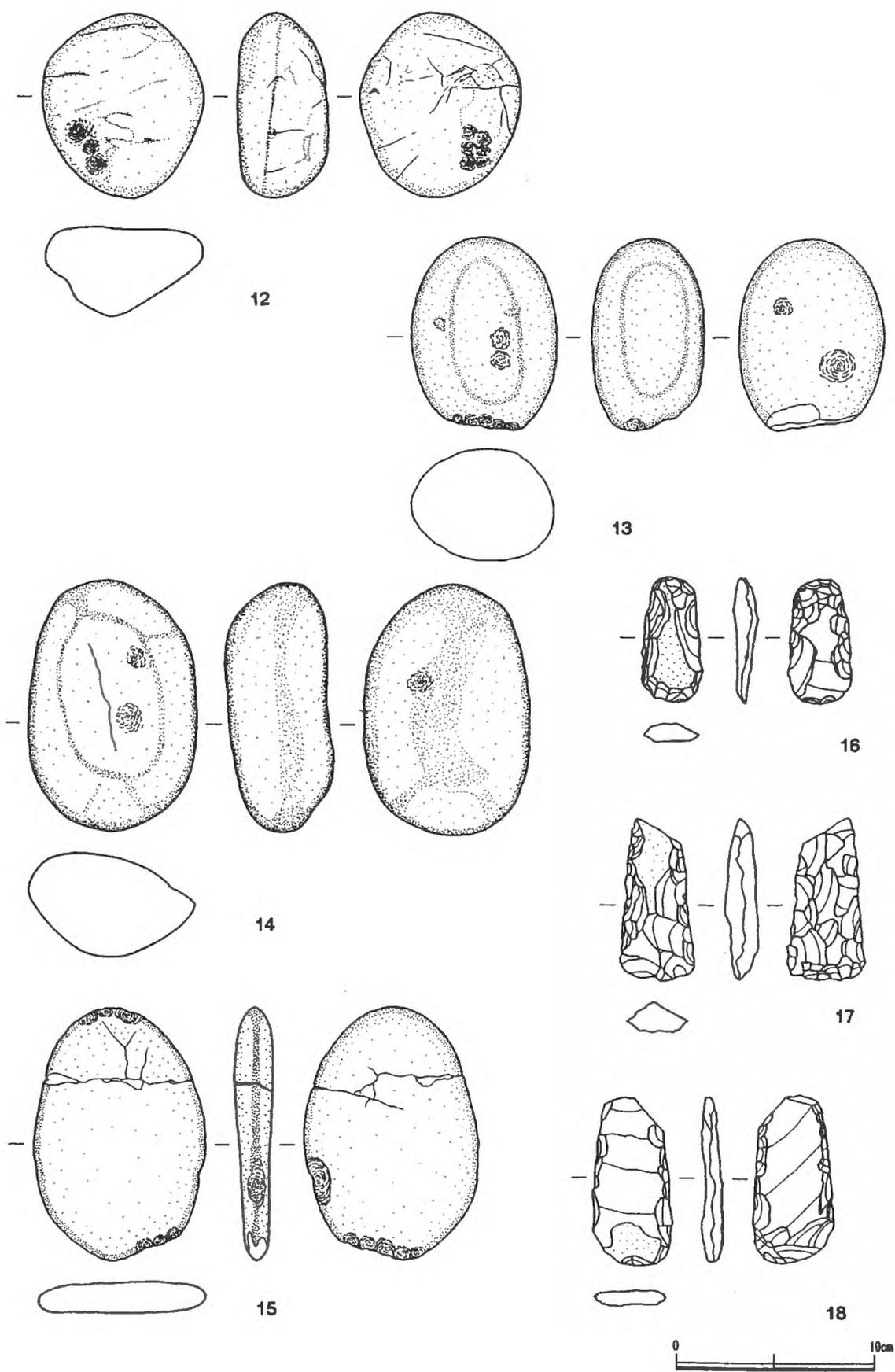


図 19 縄文時代 石器実測図 (4)

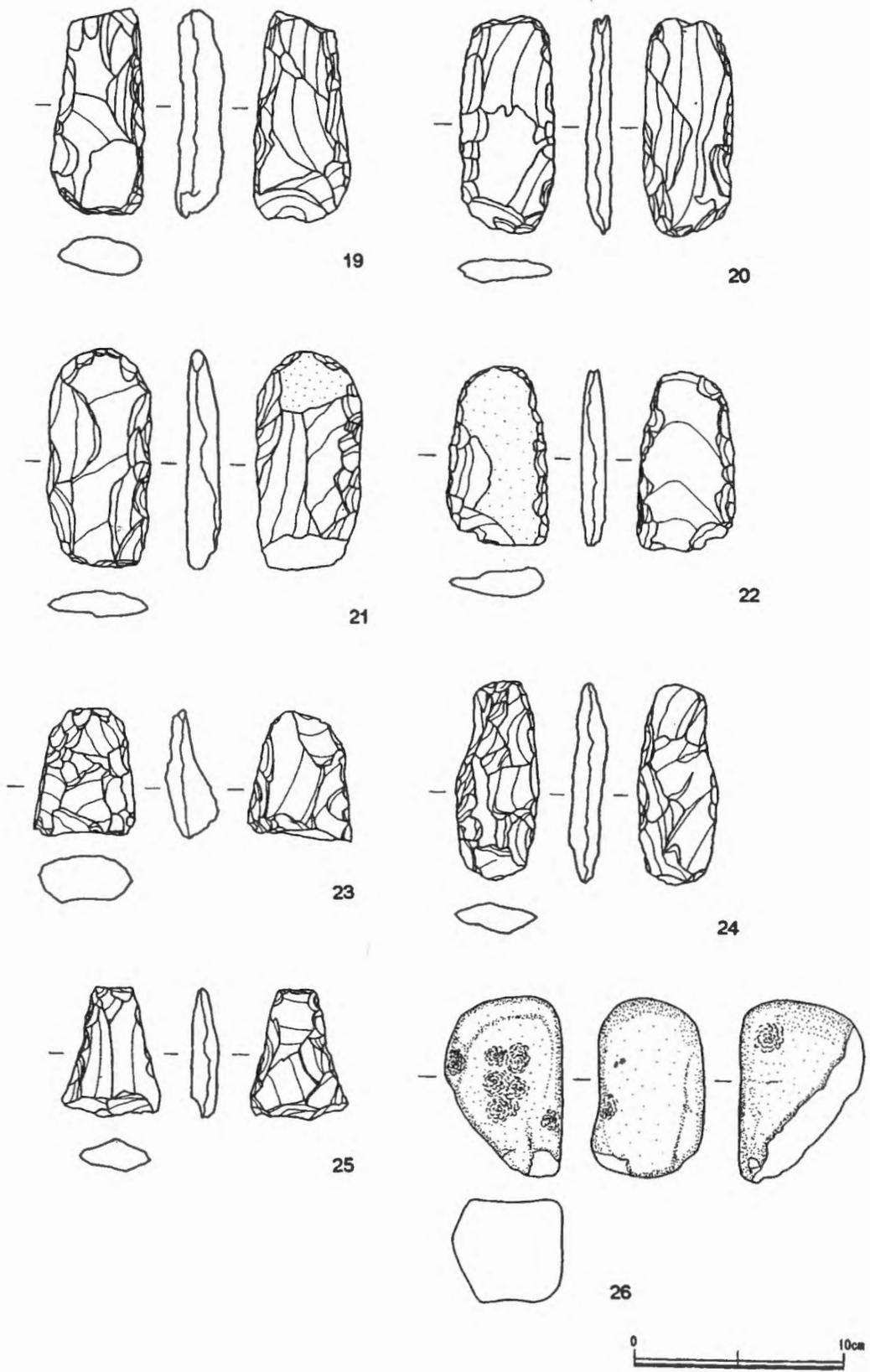


図 20 縄文時代 石器実測図 (5)

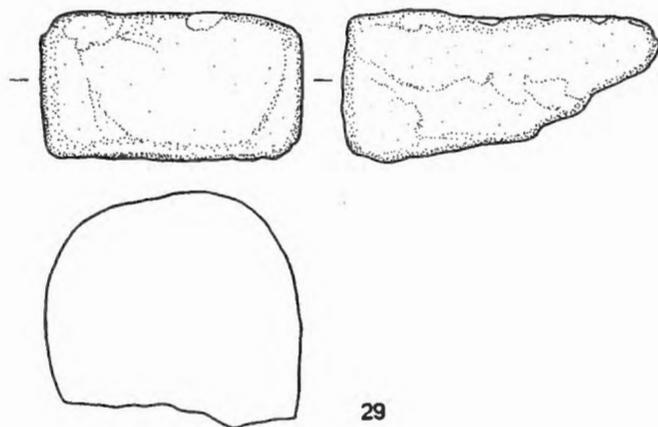
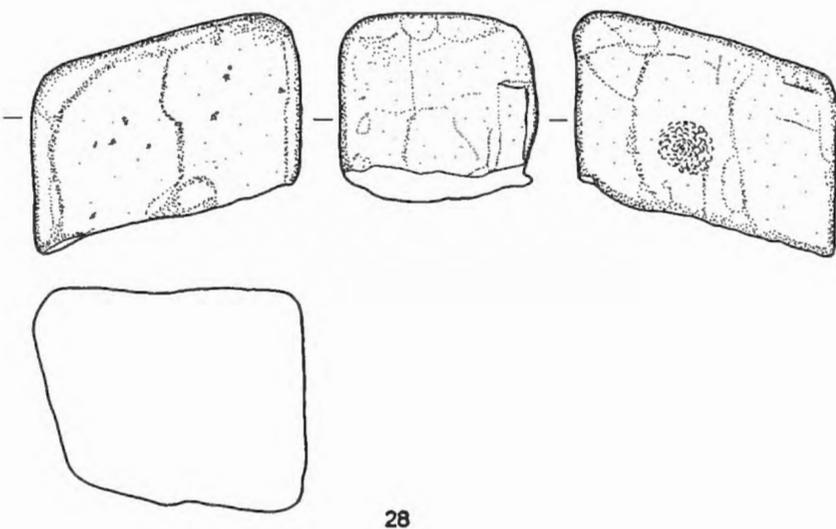
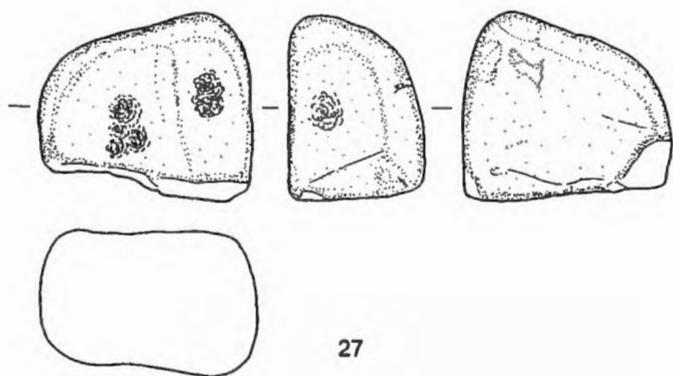


図 21 縄文時代 石器実測図 (6)

打製石斧

16～25が打製石斧である。16は完形の頁岩製で平面形態が小型の短冊形で完形である。17は完形の頁岩製で平面形態はやや小型で短冊形である。18は端部の一部が欠損するやや小型で短冊形である。19は先端部の一部が欠損する短冊形である。20両端部の一部が欠損する短冊形である。21は端部に敲き痕がある短冊形である。22は端部の一部が欠損する短冊形である。23は頁岩製で約1/2以上が欠損していると推定される短冊形である。24は側縁が括れる短冊形である。25は頁岩製のやや小型の撥形である。

石棒

27～29が石棒で全てに大きな欠損がある。27は断面形態が方形を呈し、全面ともに良く磨かれ凹がある。28は断面形態がほぼ方形を呈し、端部以外は磨られている。29は断面形態が方形を呈し、全面が方形になるように良く磨かれている。29は欠損ため断面形態がほぼ隅丸方形を呈すると推定され、良く磨かれている。

土器

縄文時代中期から後期にかけての土器が主体である。弥生時代以降では中世に属する土器が僅かながら出土した。なお()内の数字は取上げ番号である。

縄文時代

1号竪穴状遺構(図21)

1(367)は無文の外面に口縁端部に小さな突起と小さな円形の連続刺突文が施文される。2(363)は口縁部で外面が無文で端部に棒状具による沈線文が1条施文される。3(477)は棒状具による渦巻文が施文される。

2号土坑(図22)

1(351)は口縁部に平行に沈線文、縦位にキザミ状も連続刺突文が施文される。

グリッド(図23-1～4)

1(15)は口縁の橋状把手部分である。2(36)は口縁突起部分で外面に円孔と棒状具による渦巻沈線文が施文される。3(57)は口縁部で渦巻沈線文が施文される。4(115)は口縁部で渦巻沈線文が施文される。5(119)は口縁部で外面は棒状具による縦位の沈線文、粘土紐による波状文が施文される。6(132)は波状口縁の頂部で外面にやや広い円形沈線文が施文される。7(214)は胴部片で篋状具による陰刻沈線文が施文される。8(242)は口縁部で粘土紐による渦巻文が施文される。9(273)は胴部で沈線による区画文が施文される。10(372)は大きく内湾する口縁部で外面にヘラ状具によるケズリによる弧状文が施文される。11(392)は波状口縁の頂部の突起で外面に縦位の沈線文が施文される。12(459)は口縁部で波状口縁を呈し、沈線文が施文される。13(75)は口縁部で連続する渦巻沈線文が施文される。14(410)は波状口縁の頂部で外面は円孔に縦位の細い粘土紐の貼付に半截竹管による集合沈線文が施文される。15(466)は口縁部が大きく屈曲、外面に沈線による多重円形文、隆帯文が施文される。16(449)は口縁部で波状口縁を呈し、頂部に円孔、縦位沈線文、短部に渦巻沈線文が施文される。17(84)は口縁部で縦位に粘土紐貼付にキザミが施文される。18(462)は口縁部で把手状を呈している。19(77)は口縁部で縦位の集合沈線文に小突起が施文される。20(80)は口縁部で無文である。21(85)は口縁部で沈線文に短沈線文が施文される。22(86)は口縁部で小突起、円形刺突文が施文される。23(104)は口縁部橋状把手である。24(4)は口縁部突起で端部に沈線による渦巻文が施文される。25(52)は口縁部突起で粘土紐による弧状文が施文される。26(164)は口縁部把手部分で小把手部分である。27(349)は口縁把手部分に渦巻沈線文が施文される。28(438)は口縁把手部分に円形沈線文・円形刻陰文が施文される。29(408)は棒状の把手部分である。30(473)は把手部分で端部に棒状具による沈線文が施文される。31(61)は胴部で矢羽(羽)状沈線文が施文される。32(247)は胴部で外面は棒状具による渦巻文・沈線文が施文される。33(444)は胴部で楕円形区画文に縦位沈線文が

施文される。34(294)は胴部で外面はやや幅のある横位の隆帯文を挟んで刺突文が充填される。35(296)は胴部に小さな橋状把手が付き、外面は粘土紐により貼付文に連続爪形文・押引文が施文される。36(298)は胴部で貼付文に大きな押圧状キザミが施文される。37(304)は胴部で外面は沈線文に円形貼付文に刺突文が施文される。38(347)は胴部で外面は粘土紐による渦巻文、集合沈線文が施文される。39(407)は胴部で外面は横位の隆帯文間に半截竹管による集合沈線文が施文される。40(428)は胴部で円形・区画文が施文される。41(450)は胴部で外面は半截竹管による多重半隆起線文に集合沈線文が施文される。42(453)は胴部で外面は半截竹管による連続爪形文が施文される。43(454)は胴部で外面は縦位の集合沈線文に隆帯文上に連続キザミ文が施文される。44(461)は胴部で細い粘土紐による縦位の貼付文が施文される。45(399)は胴部で格子状沈線文が施文される。

46(269)は口縁部で外面に縦位に幅のやや広い波状沈線文、ヘラ状具による沈線文が施文される。47(312)は端部が大きく屈曲、外面は半截竹管による集合沈線文が施文される。48(322)は口縁部で擦痕に結節縄文が施文される。49(353)は口縁部に平行して隆帯文、平行する沈線文に斜縄文が充填される。50(403)口縁部で外面は直線・弧状の沈線文が施文される。51(431)は口縁部小突起で外面に縦位の隆帯文と垂下する細い粘土紐による貼付文が施文される。52(441)は口縁部で外面は無文で端部に連続爪形文が施文される。53(74)は口縁部で粘土紐による波状文が施文される。54(76)は口縁部で短部に三角形を呈し、無文である。55(436)は小型の波状口縁部で頸部が大きく「く」の字に屈曲、外面に斜縄文が施文される。56(78)は口縁部で無文である。57(79)は口縁部で多重文が施文される。58(375)は口縁部橋状把手である。59(265)は胴部で外面は横位の隆帯文・粘土紐による波状文、縦位の隆帯文に連続押引文が施文される。60(318)は胴部で外面は棒状具による羽状文が施文される。61(402)は胴部で外面は連続して「ハ」の字に短沈線文が施文される。62(429)は胴部で外面は縦・横位の隆帯文に粘土紐による波状文が施文される。63(465)は胴部で縦位の粘土紐による山形文が施文される。64(468)は胴部で外面は粘土紐による縦位の隆帯文が施文される。65(378)は台付深鉢形土器と推定される接合部で透かしが彫られている。

66(107)は口縁部の突起で棒状具による沈線による円形文・刺突文、円孔が施文される。67(146)は口縁部で斜縄文が施文される。68(480)は棒状具による渦巻状沈線文が施文される。69(35)は口縁部突起で円孔が開けられていたと推定される。70(337)は胴部で沈線による銚状文が施文される。

71(357)～78(435)は底部である。71(357)は篋状具による施文がある。72(320)は底部外面に木葉痕が残されている。

弥生時代以降

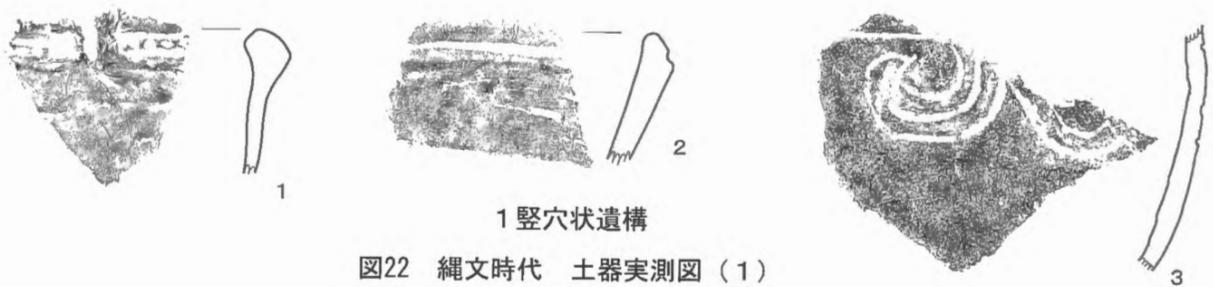
17号ピット

1は自然釉施釉壺形土器で、濃緑色の自然釉が掛かる胴部上半の肩部分片である。篋状具による平行・波状沈線文等が施文される。時期は中世前半と推定される。

10号土坑

2は土師質土器（カワラケ）である。底部外面に静止糸切痕が残される。時期は中世と推定される。

(小金澤)



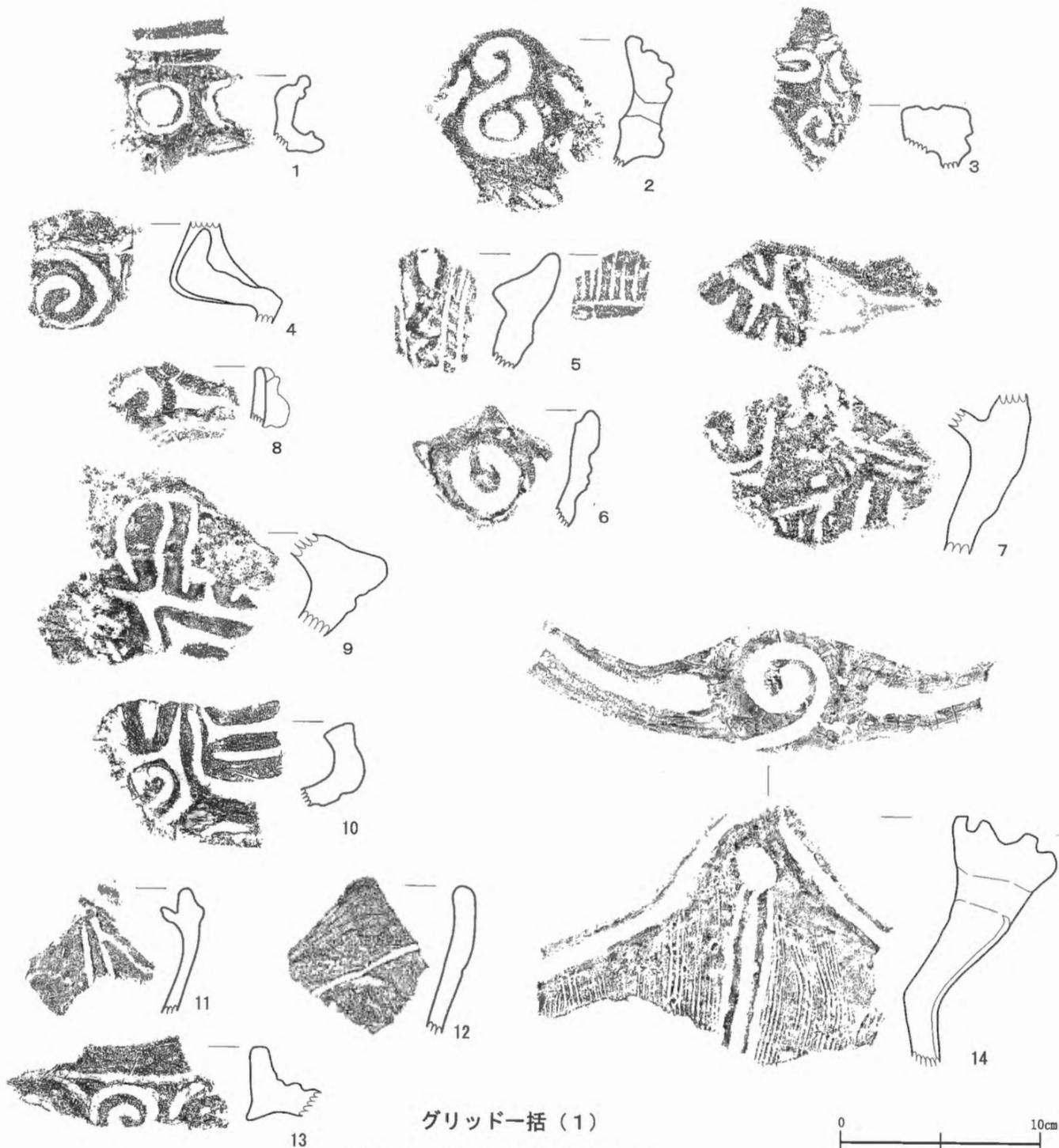
1 竖穴状遺構

図22 縄文時代 土器実測図 (1)



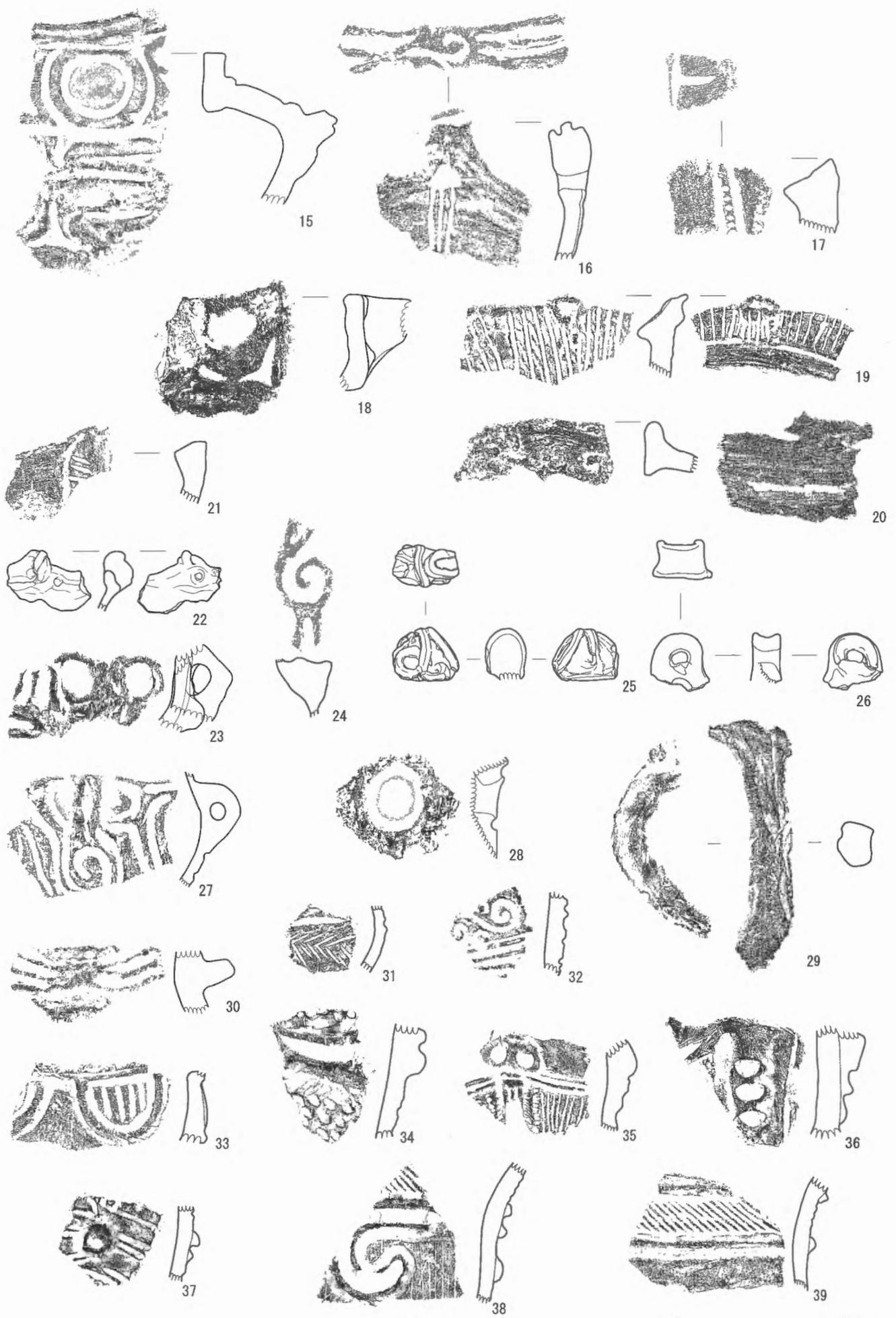
2号土坑

図23 縄文時代 土器実測図 (2)



グリッド一括 (1)

図24 縄文時代 土器実測図 (3)



グリッド一括 (2)



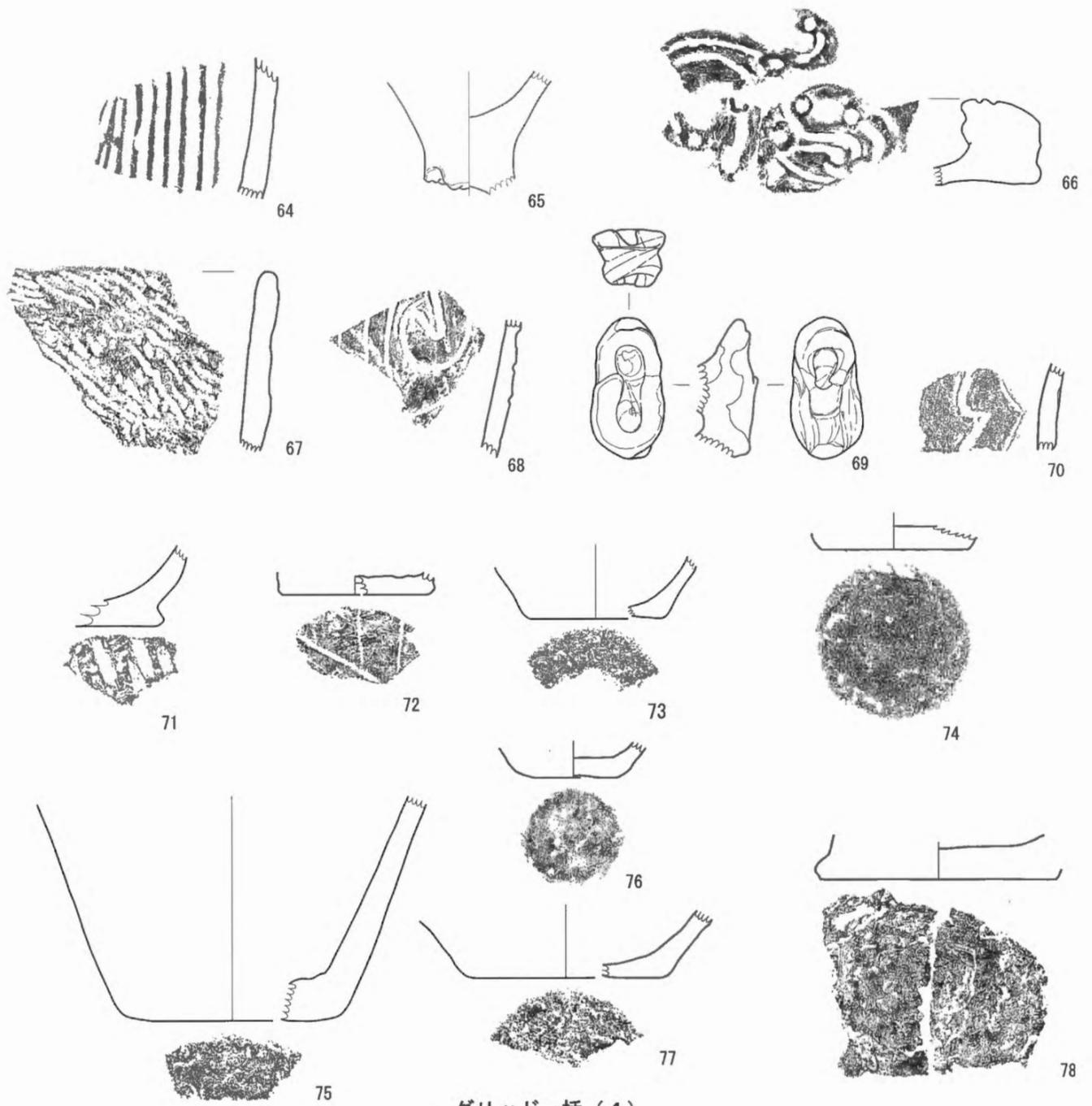
図25 縄文時代 土器実測図 (4)



グリッド一括 (3)

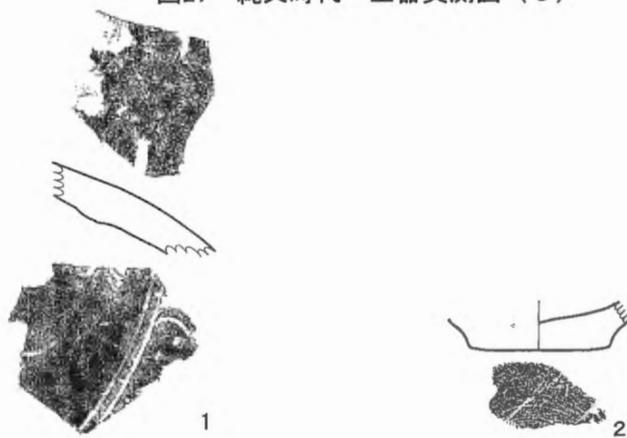
図26 縄文時代 土器実測図 (5)





グリッド一括(4)

図27 縄文時代 土器実測図(6)



17号ピット

10号土坑

図28 中世 土器実測図(7)



図版番号	遺構名	種類	石材	残存状況	法量 (cm, g)				備考
					長さ	幅	厚さ	重さ	
図16-1	グリッド	石鏃	黒曜石	脚部先端欠損	1.8	(1.3)	0.2	0.5	
図16-2	グリッド	石鏃	黒曜石	脚部欠損	1.9	(1.4)	0.3	0.3	
図16-3	グリッド	石皿	安山岩	完形	23.4	15.6	10.4	5.4kg	
図16-4	グリッド	石皿	安山岩	ほぼ完形	17.8	15.4	8.1	2.4kg	
図16-5	グリッド	石皿	安山岩	完形	17.3	12.6	7.0	2.2kg	
図17-6	グリッド	石皿	安山岩	約2/3	(24.7)	23.6	12.6	10.2kg	
図17-7	グリッド	石皿	安山岩	約3/4	26.7	(30.2)	15.2	17.6kg	
図18-8	グリッド	石皿	安山岩	約1/2	46.5	(37.6)	22.2	10.0kg	
図18-9	グリッド	磨石	安山岩	ほぼ完形	7.6	4.6	4.2	189.7	
図18-10	グリッド	磨石	安山岩	完形	7.5	6.5	4.9	334.0	
図18-11	グリッド	磨石	安山岩	完形	9.1	6.3	4.6	339.0	
図19-12	グリッド	磨石	安山岩	完形	9.1	8.2	4.5	429.0	
図19-13	グリッド	磨石	安山岩	ほぼ完形	9.7	7.2	5.7	569.0	
図19-14	グリッド	磨石	安山岩	完形	12.6	8.5	5.4	797.0	
図19-15	グリッド	磨石	礫岩	完形	12.6	8.8	2.0	266.0	煎餅形石器
図19-16	グリッド	打製石斧	頁岩	完形	6.3	3.1	1.4	25.1	
図19-17	グリッド	打製石斧	頁岩	完形	8.1	3.8	1.6	48.6	
図19-18	グリッド	打製石斧	粘板岩	ほぼ完形	8.3	4.0	1.0	40.1	
図20-19	グリッド	打製石斧	粘板岩	完形	9.8	4.4	2.2	109.9	
図20-20	グリッド	打製石斧	粘板岩	ほぼ完形	10.2	4.4	1.1	72.0	
図20-21	グリッド	打製石斧	粘板岩	ほぼ完形	10.4	5.0	1.6	104.8	
図20-22	グリッド	打製石斧	粘板岩	ほぼ完形	(8.5)	4.7	1.1	67.2	
図20-23	グリッド	打製石斧	頁岩	約1/2	(6.1)	(4.8)	2.5	82.3	
図20-24	グリッド	打製石斧	粘板岩	完形	9.5	3.9	1.7	60.9	
図20-25	グリッド	打製石斧	頁岩	完形	6.2	4.7	1.3	36.3	
図20-26	グリッド	石棒	安山岩	端部のみ	(8.6)	5.6	5.5	329.0	
図21-27	グリッド	石棒	安山岩	端部のみ	(7.3)	8.3	5.5	687.0	
図21-28	グリッド	石棒	安山岩	端部のみ	(9.5)	10.7	9.7	1.2kg	
図21-29	グリッド	石棒	安山岩	端部のみ	-	10.5	-	997.0	

表6 石器観察表

表7-1
誤
正
図21 → 図22
図22 → 図23
図23-1 → 図24-1
~-14 → ~-14
図23-15 → 図25-1
~-39 → ~-39
図23-40~63 → 図26-40~63
図23-64~78 → 図27-64~78
図24-1~2 → 図28-1~2

図版番号	出土地点	器種・器形	部位	胎土	施文等	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他
図21-1	1号竪穴状遺構	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	無文の外面に口縁端部に小さな突起と小さな円形の連続刺突文	鈍い黄橙色	良	-	-	-	後期前半
図21-2	1号竪穴状遺構	深鉢形土器	口縁部	砂・雲母・白色粒を含む	外面が無文で端部に棒状具による沈線文が1条施文	橙色	良	-	-	-	後期前半
図21-3	1号竪穴状遺構	深鉢形土器	胴部	砂を多く含み、石英・赤色粒・白色粒・小石を含む	棒状具による渦巻文	明黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図22-1	2号土坑	深鉢形土器	口縁部	砂を多く含み、長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	口縁部に平行に沈線文、縦位にキザミ状の連続刺突文	鈍い黄橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-1	グリッド	深鉢形土器	口縁部把手	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	円形沈線文、円形刻陰文	黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-2	グリッド	深鉢形土器	口縁部突起	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒・小石を含む	外面に円孔と棒状具による渦巻沈線文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-3	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・石英・赤色粒・小石を含む	渦巻沈線文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-4	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	渦巻沈線文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-5	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・雲母・赤色粒・白色粒を含む	外面は棒状具による縦位の沈線文、粘土紐による垂下する波状文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-6	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・石英・白色粒を含む	外面にやや広い円形の刻陰状沈線文	鈍い褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-7	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂を多く含み、長石・石英・赤色粒・白色粒を含む	棒状具による刻陰沈線文	鈍い褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-8	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	粘土紐による渦巻文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-9	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂を多く含み、長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	沈線による区画文	明褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-10	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・雲母・赤色粒・白色粒を含む	外面にヘラ状具によるケズリによる弧状文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-11	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・赤色粒・白色粒を含む	外面に縦位の沈線文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-12	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・雲母・赤色粒・白色粒を含む	波状口縁に沈線文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-13	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・石英・赤色粒・白色粒を含む	連続する渦巻沈線文	鈍い褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-14	グリッド	深鉢形土器	口縁部へ胴部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	外面の円孔に縦位の細い粘土紐の貼付に半截竹管による集合沈線文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-15	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	外面に沈線による多重円形文、隆帯文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-16	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・石英・赤色粒・白色粒を含む	波状口縁の頂部に円孔、縦位沈線文、端部に渦巻沈線文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-17	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂を多く含み、長石・雲母・石英・白色粒を含む	縦位の粘土紐にキザミ	明褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-18	グリッド	深鉢形土器	口縁部	長石・雲母・白色粒を含む	把手状	鈍い褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-19	グリッド	深鉢形土器	口縁部	雲母・赤色粒・白色粒・小石を含む	縦位の集合沈線文に小突起	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-20	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	無文	明赤褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-21	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・雲母・赤色粒・白色粒を含む	沈線文に短沈線文	浅黄色	良	-	-	-	中期前半
図23-22	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・雲母・赤色粒・白色粒を含む	小突起、円形刺突文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-23	グリッド	深鉢形土器	口縁部把手	長石・赤色粒・白色粒を含む	眼鏡状把手、沈線文	明褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-24	グリッド	深鉢形土器	口縁部突起	砂・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	端部に沈線による渦巻文	褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-25	グリッド	深鉢形土器	口縁部突起	長石・赤色粒・白色粒を含む	粘土紐による弧状文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-26	グリッド	深鉢形土器	突起・把手部	雲母・石英・白色粒を含む	小把手	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-27	グリッド	深鉢形土器	口縁部把手	砂・長石・雲母を含む	把手、渦巻沈線文	赤褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-28	グリッド	深鉢形土器	口縁部把手	砂・長石・雲母・白色粒を含む	円形沈線文、円形刻陰文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-29	グリッド	深鉢形土器	把手部	砂・長石・雲母・白色粒を含む	把手	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-30	グリッド	深鉢形土器	把手部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	端部に棒状具による沈線文	暗褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-31	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・石英・白色粒を含む	矢羽(羽)状沈線文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-32	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・赤色粒・白色粒を含む	外面に棒状具による渦巻文、沈線文	褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-33	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・石英・白色粒を含む	楕円形区画文に縦位沈線文	褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-34	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒・小石を含む	外面にやや幅のある横位の隆帯文を挟んで刺突文	鈍い褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-35	グリッド	深鉢形土器	胴部	雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	外面に粘土紐による貼付文に連続爪形文・押引文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-36	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	貼付文に大きな押圧状キザミ	褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-37	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・赤色粒・白色粒・小石を含む	外面に沈線文に円形貼付に文刺突文	浅黄色	良	-	-	-	中期前半
図23-38	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	外面に粘土紐による渦巻文、集合沈線文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-39	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒・小石を含む	外面に横位の隆帯文の間に半截竹管による集合沈線文	褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-40	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・白色粒を含む	粘土紐による円形、区画文	褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-41	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂を多く含み、長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒・小石を含む	外面は半截竹管による多重半隆起線文に集合沈線文	明褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-42	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂を多く含み、長石・雲母・白色粒を含む	外面は半截竹管による連続爪形文	鈍い褐色	良	-	-	-	中期前半

表7-1 土器観察表

図原番号	出土地点	器種・器形	部位	胎土	施文等	色調	焼成	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他
図23-43	グリッド	深鉢形土器	胴部	雲母・石英・白色粒を含む	外面は縦位の集合沈線文に隆帯文上に連続キザミ文	橙色	良	-	-	-	中期前半
図23-44	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂をやや多く含み、長石・雲母・赤色粒・白色粒・小石を含む	細かい粘土紐による縦位貼付	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-45	グリッド	深鉢形土器	胴部	長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	格子状沈線文	鈍い褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-46	グリッド	深鉢形土器	口縁部	長石・雲母・白色粒を含む	外面に縦位の幅のやや広い波状沈線文、ヘラ状具による沈線文	鈍い赤褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-47	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂を多く含み、長石・雲母・赤色粒・白色粒・小石を含む	外面は半截竹管による集合沈線文	鈍い褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-48	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	擦跡に節節縄文	鈍い赤褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-49	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・赤色粒・白色粒を含む	口縁部に平行して隆帯文、平行する沈線文に斜縄文	鈍い褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-50	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・石英・白色粒を含む	外面に直線・弧状の沈線文	灰褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-51	グリッド	深鉢形土器	口縁部小突起	砂を多く含み、長石・石英・赤色粒・白色粒・小石を含む	外面に縦位の隆帯文と垂下する細い粘土紐による貼付文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-52	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・赤色粒・白色粒を含む	外面は無文で端部に連続爪形文	鈍い赤褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-53	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・雲母・石英・白色粒を含む	粘土紐による波状文	明褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-54	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	口縁短部三角形、無文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-55	グリッド	深鉢形土器	口縁部へ胴部	雲母・石英・赤色粒を含む	外面に斜縄文	橙色	良	(13.2)	-	-	中期後半
図23-56	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	無文	明赤褐色	良	(14.2)	-	-	中期後半
図23-57	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・石英・赤色粒・白色粒を含む	多重文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-58	グリッド	深鉢形土器	把手部	砂・長石・雲母・白色粒・小石を含む	桶状把手	褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-59	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂を多く含み、長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	外面に横位の隆帯文・粘土紐による波状文、縦位の隆帯文に連続押引文	明赤褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-60	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・赤色粒・白色粒を含む	外面に棒状具による矢(羽)状文	明褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-61	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・白色粒・小石を含む	外面に連続して「ハ」の字に短沈線文	灰黄褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-62	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒・小石を含む	外面は縦・横位の隆帯文に粘土紐による波状文	鈍い黄褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-63	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	縦位の粘土紐による山形文	灰褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-64	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・雲母・白色粒を含む	外面は粘土紐による縦位の隆帯文	明黄褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-65	グリッド	台付深鉢形土器	接合部	砂・長石・雲母・石英・白色粒を含む	透かしが開けられる	赤褐色	良	-	-	-	中期後半
図23-66	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	棒状具による沈線による円形文・刺突文、円孔	淡黄色	良	-	-	-	後期前半
図23-67	グリッド	深鉢形土器	口縁部	砂・長石・雲母・石英を含む	外面に斜縄文	暗褐色	良	-	-	-	後期前半
図23-68	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂・長石・雲母・石英・赤色粒・白色粒を含む	外面は棒状具による渦巻状(「J」字文)沈線文	明赤褐色	良	-	-	-	中期前半
図23-69	グリッド	深鉢形土器	口縁部突起	雲母・石英・白色粒を含む	円孔が開けられていたと推定	褐色	良	-	-	-	後期前半
図23-70	グリッド	深鉢形土器	胴部	砂を多く含み、雲母・赤色粒・白色粒・小石を含む	銹状文	褐灰色	良	-	-	-	後期前半
図23-71	グリッド	深鉢形土器	底部	雲母・石英を含む	筒状具による施文	明褐色	良	-	-	13.8	
図23-72	グリッド	深鉢形土器	底部	砂・長石・雲母・白色粒・小石を含む	外面に木葉痕	明赤褐色	良	-	-	7.0	
図23-73	グリッド	深鉢形土器	底部	砂・長石・白色粒・小石を含む	無文	赤褐色	良	-	-	6.6	
図23-74	グリッド	深鉢形土器	底部	砂をやや多く含み、長石・雲母・白色粒・小石を含む	無文	明褐色	良	-	-	7.2	
図23-75	グリッド	深鉢形土器	底部	砂・長石・雲母・白色粒・小石を含む	無文	褐色	良	-	-	11.0	
図23-76	グリッド	深鉢形土器	底部	砂を多く含み、赤色粒・白色粒・小石を含む	無文	灰黄褐色	良	-	-	3.8	
図23-77	グリッド	深鉢形土器	底部	砂・雲母・赤色粒・白色粒・小石を含む	無文	鈍い黄褐色	良	-	-	9.0	
図23-78	グリッド	深鉢形土器	底部	砂を多く含み、長石・雲母・石英・白色粒・小石を含む	無文	明赤褐色	良	-	-	11.4	
図24-1	17号ピット	壺形土器	胴部	精製	筒状具による平行沈線文と波状文、自然軸施軸	濃緑色	良	-	-	-	中世前半
図24-2	10号土坑	土師質土器	底部	雲母を含む	外面に静止糸切痕	鈍い黄褐色	良	-	-	6.2	カワラケ

表7-2 土器観察表

5 まとめ

辻遺跡はこれまで工事等によって、縄文時代中期～弥生時代中期にかけての土器が確認されている。特に弥生時代中期の土器は当該期では芝川・富士宮地区では極めて例の少ない遺物であることから周知の遺跡として有名である。今回の調査では弥生時代に属する明確な遺構と遺物は発見されなかったが、初めて発掘調査によって縄文時代中期～後期にかけての遺構と遺物が纏まって検出・出土した。これによって遺跡の実態の一部が明らかになったことに今回の調査の大きな意義がある。

土器

縄文時代中期

縄文時代中期は前半～後半にかけての時期の土器が出土した。

縄文時代中期前半は前葉にあたる五領ガ台式土器に併行すると思われる格子状や矢羽沈線文が施文される土器片が僅かながら出土した。次に中葉では勝坂式土器が纏まって出土した。その主体は後葉にあたる時期で中部山地の井戸尻式に併行する。この時期は文様、器形ともに特徴的なものが多く見られる。動物を模した把手状の文様が施文される土器等が出土している。

縄文時代中期の土器は後半に属する曾利式土器が中心で、僅かに加曾利E式土器が出土した。

本調査区から北東へ直線で約4.8kmに縄文時代中期後半を代表する国指定史跡「千居遺跡」が存在する。この遺跡で出土した土器群は千居式土器あるいは田方郡修善寺町入谷平ら遺跡出土の土器群から入谷平式土器と称された時期もあったが、ここでは曾利式土器と加曾利EIV式土器の範疇のなかで取り扱う。

千居遺跡では加曾利EⅡ式・曾利V式に併行する土器が出土することから始まり、加曾利EⅢ式・曾利V式に併行する土器でほぼ終焉する。

本調査区ではほぼ千居遺跡より先行し、曾利Ⅱ式併行する土器が出土している。さらに曾利V式土器も見られる。

縄文時代後期

縄文時代後期の土器は称名寺式土器から堀之内1式土器にかけてである。

富士宮市滝戸遺跡ではこの時期に併行する土器群が出土している。称名寺式土器の特徴である磨り消し縄文や堀之内1式に併行する深鉢形土器が出土している。

本調査区では滝戸遺跡から出土したものと併行関係にある称名寺式土器新段階～堀之内1式古段階にかけての突起を有する深鉢形土器が出土の主体を占めている。

石器

石器は打製石斧の出土比率がやや多い点の特徴として指摘できる。主体となる平面形態は短冊形であるが、僅かに撥形がある。石材として頁岩製が含まれている。

打製石斧の出土に占める比率が同時期の遺跡に比較して高いのに対して石鏃は2点と少数の出土であった。

石器の出土比率から本遺跡では食生活のなかで石鏃が占める比率が低いことから狩猟の占める割合も相関して極めて低いと推定される。その一方で土掘り具や伐採用の道具と推定される打製石斧が多い点があげられる。これらから食用としたクリ林等を2次林とした育成・管理を主体にした植物主体の食生活が想像される。

(小金澤)

引用・参考文献

個人論文等

- 小野真一 1990 「小塚遺跡」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)
栗野克美 1990 「南原遺跡」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)
瀬川裕市郎 1990 「縄文時代 住居跡一覧」(『静岡県史 資料編1 考古一』所収)
高橋豊 1995 「第1節 小塚遺跡(第3次調査)の地質柱状断面にみる火山灰層序と遺跡層準」(『小塚遺跡—金刺建設株式会社倉庫建設に伴う埋蔵文化財第3次発掘調査報告書及び芝川町道改修工事に伴う埋蔵文化財第4次調査報告書—』)
土隆一 1995 「芝川町流域の地形・地質と水環境」(『芝川町芝川流域の水環境—芝川町地域開発環境配慮指針策定事業報告—』)
松本一男 1998 「静岡県内検出の縄文時代住居の時代的変遷と地域的特性について—住居を構成する属性から時代的変遷と地域性を探る—」(『静岡県考古学研究 No.30』所収)

書籍・報告書等

- 加藤学園考古学研究所 1975 『千居』
「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1982 『角川日本地名辞典 22 静岡』角川書店
静岡県 1990 『静岡県史 資料編1 考古一』
静岡県 1992 『静岡県史 資料編3 考古三』
芝川町教育委員会 1972 『駿河小塚』
芝川町教育委員会 1981 『(駿河)小塚遺跡第2次調査報告書』
芝川町教育委員会 1985 『芝川町の文化財』
芝川町教育委員会 1995 『小塚遺跡—金刺建設株式会社倉庫建設に伴う埋蔵文化財第3次発掘調査報告書及び芝川町道改修工事に伴う埋蔵文化財第4次調査報告書—』
芝川町教育委員会 1995 『小塚遺跡—個人住宅建設に伴う埋蔵文化財第5次発掘調査報告書—』
芝川町教育委員会 2003 『大鹿窪遺跡 窪B遺跡—県営中山間地域総合整備事業柚野の里地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—(遺構編)』
富士宮市教育委員会 1993 『富士宮市の遺跡—富士宮市遺跡詳細分布報告書—』
富士宮市教育委員会 1997 滝戸遺跡—市立富士第三中学校校舎増改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』所収)
山梨県 1999 「1 年代・層位」(『山梨県史 資料編2 原始・古代2』)

報告書抄録

ふりがな	つじいせき		
書名	辻遺跡		
副書名	芝川町消防団第1分団詰所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ名		シリーズ番号	
編著者名	小金澤保雄 武田英俊 保竹貴幸		
編集機関	静岡県富士郡芝川町教育委員会		
所在地	静岡県富士郡芝川町長貫1211-1 TEL 0544(65)0402		
発行年月日	西暦2004年3月26日		

所収遺跡名	所在地	コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村 遺跡番号	北緯 東経			
つじいせき 辻遺跡	静岡県富士郡 芝川町下柚野 字辻垣	22316	135-33-28	2003年 1月19日～ 2004年 3月26日	135	消防団第1分団 詰所建設
		7	35-15-14			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
辻遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代以降	竪穴状遺構 柱穴列跡・配石遺構 集石遺構	縄文土器・石器	

写真図版

写真1 調査前風景（東より）



写真2 調査前風景（北より）



写真3 重機による表土剥ぎ



写真4 重機による
スコリア層剥ぎ取り



写真5 作業風景



写真6 1号柱穴列
(縄文時代)



写真7 1号竖穴状遺構
(縄文時代)



写真8 1号集石遺構
(縄文時代)



写真9 1号配石遺構
(縄文時代)



写真10 2号配石遺構
(縄文時代)



写真11 3号配石遺構
(縄文時代)

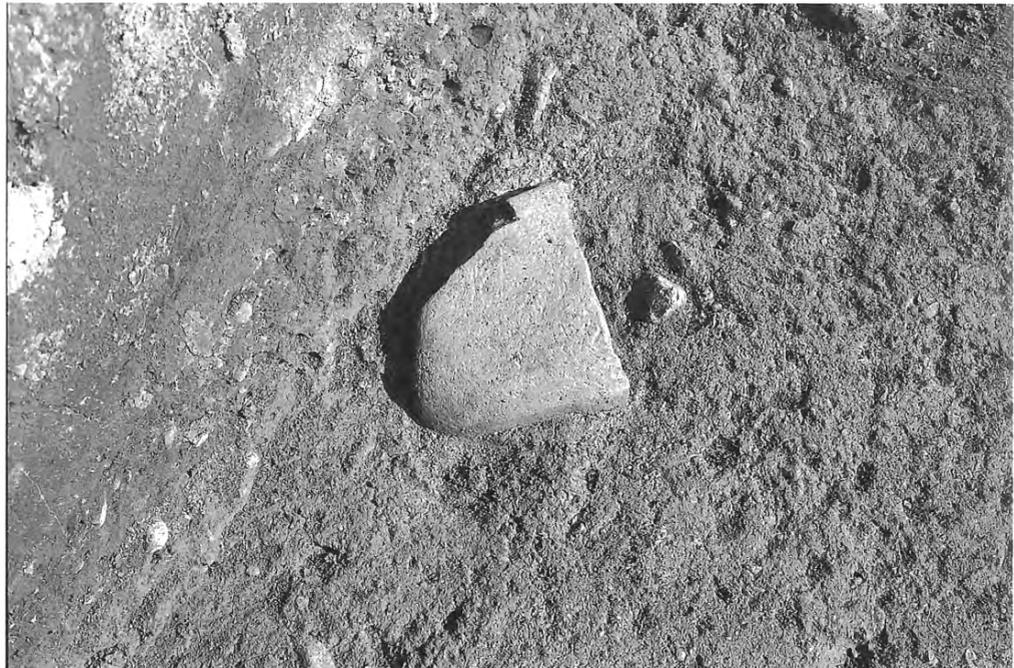


写真12 1号土坑 (縄文時代)



写真13 2号土坑（縄文時代）



写真14 1号土坑
（弥生時代以降）



写真15 2号土坑
（弥生時代以降）

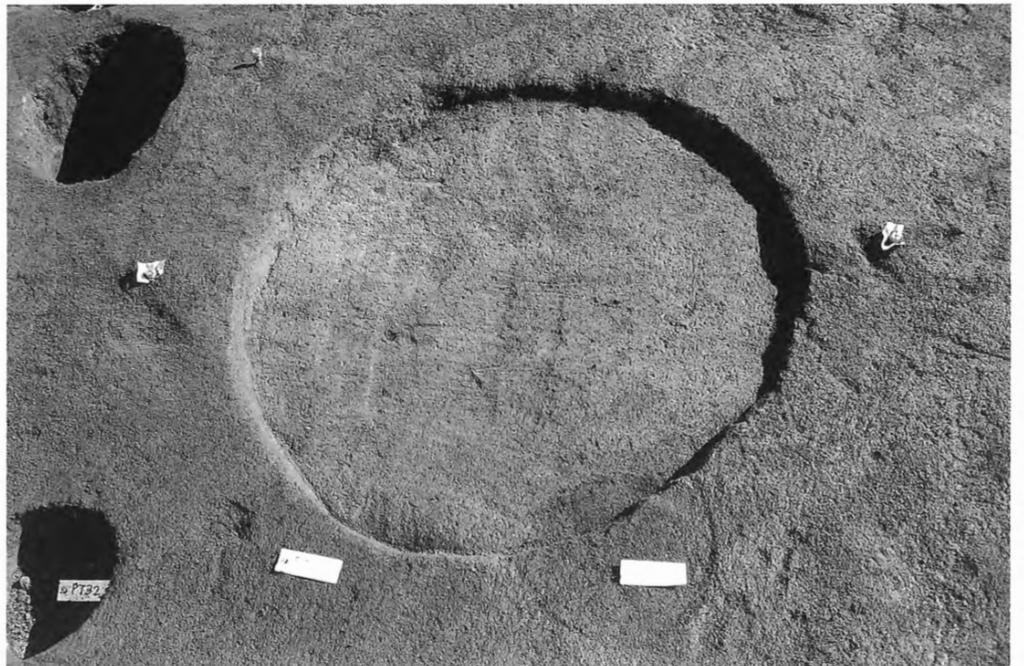


写真16 3号土坑
(弥生時代以降)

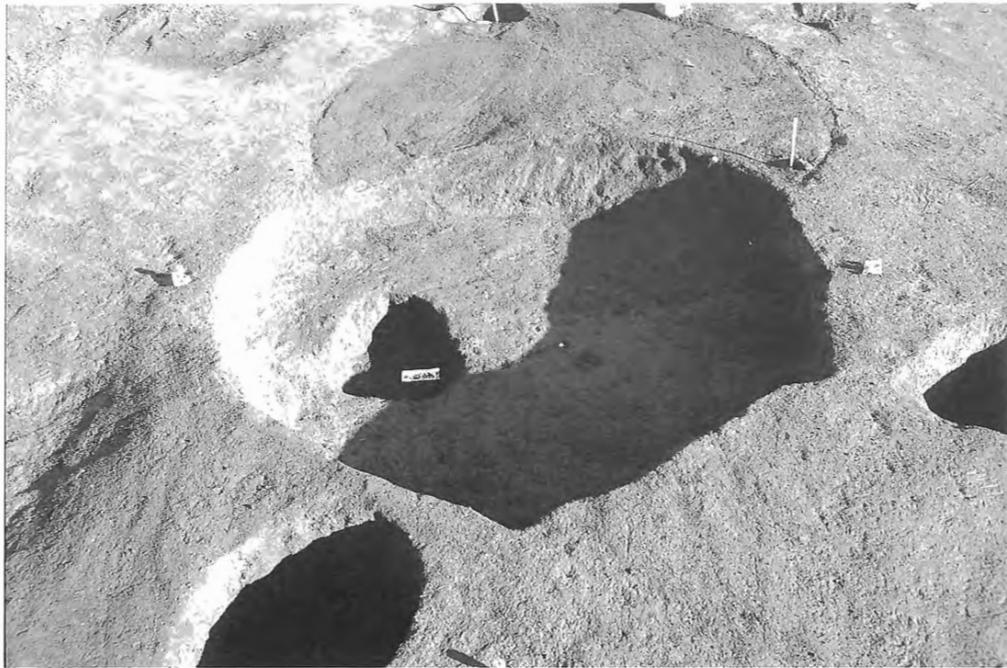


写真17 4号土坑
(弥生時代以降)



写真18 5号土坑
(弥生時代以降)



写真19 6号土坑
(弥生時代以降)



写真20 7号土坑
(弥生時代以降)



写真21 8号土坑
(弥生時代以降)

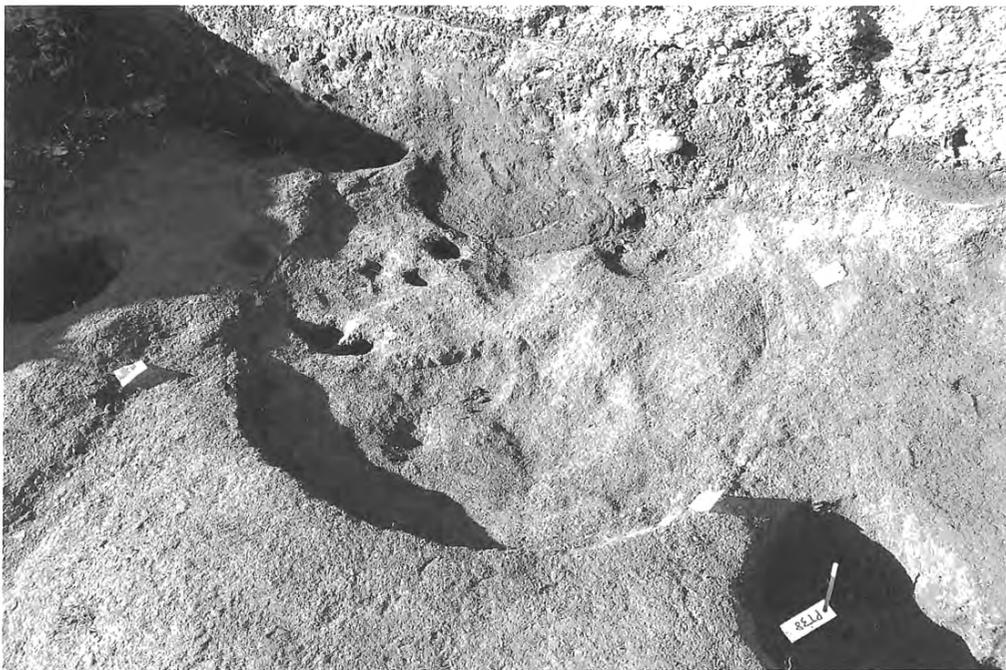


写真22 9号土坑
(弥生時代以降)

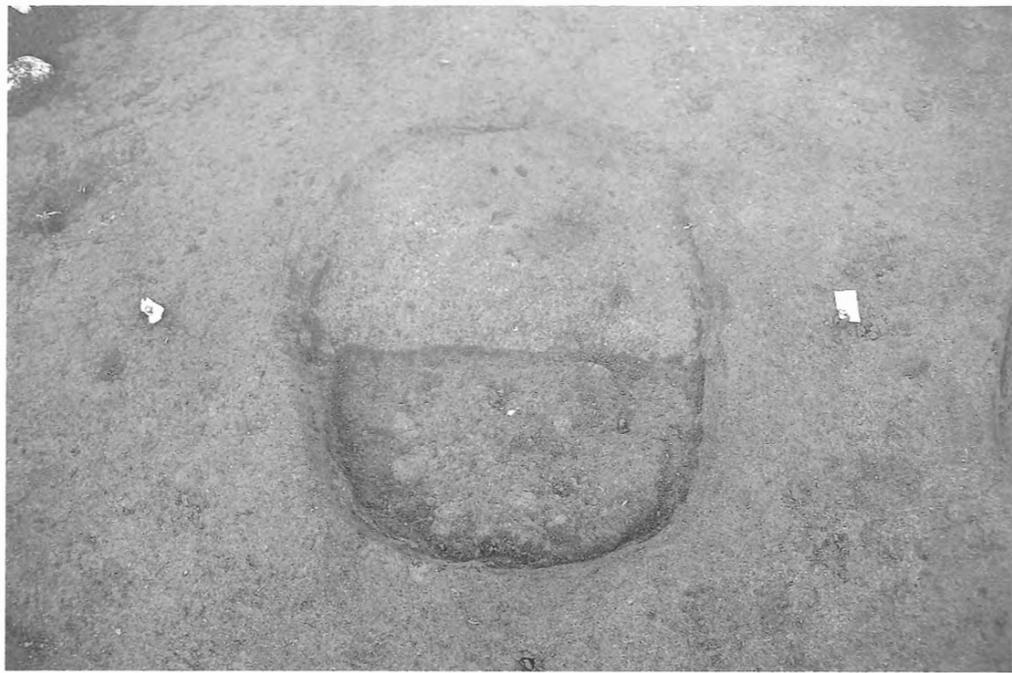


写真23 10号土坑
(弥生時代以降)

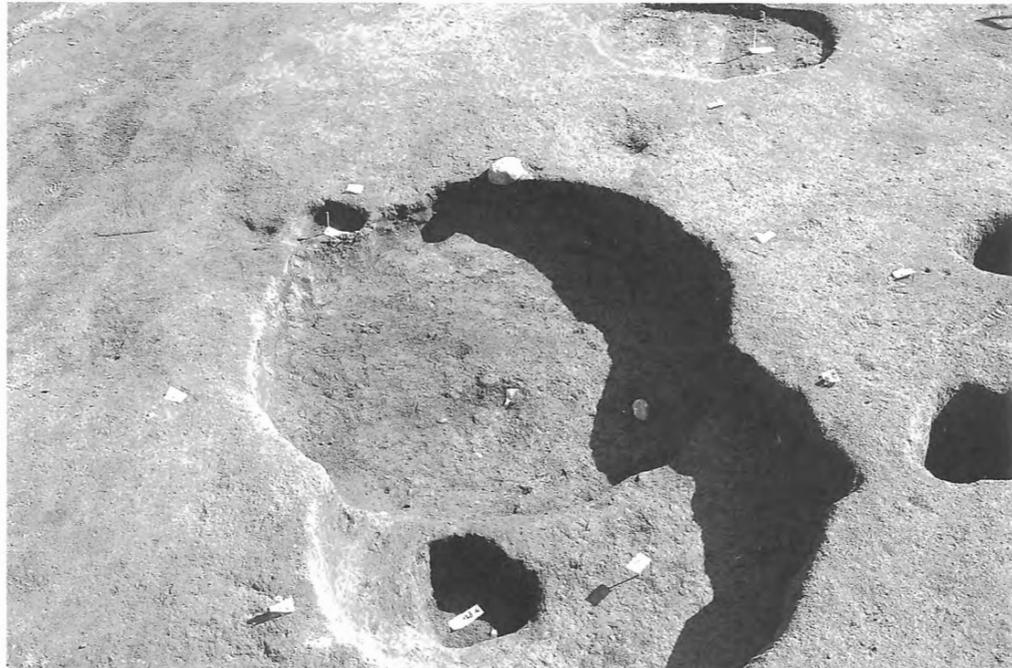


写真24 11号土坑
(弥生時代以降)



写真25 遺構検出状況①
(弥生時代以降)



写真26 遺構検出状況②
(弥生時代以降)

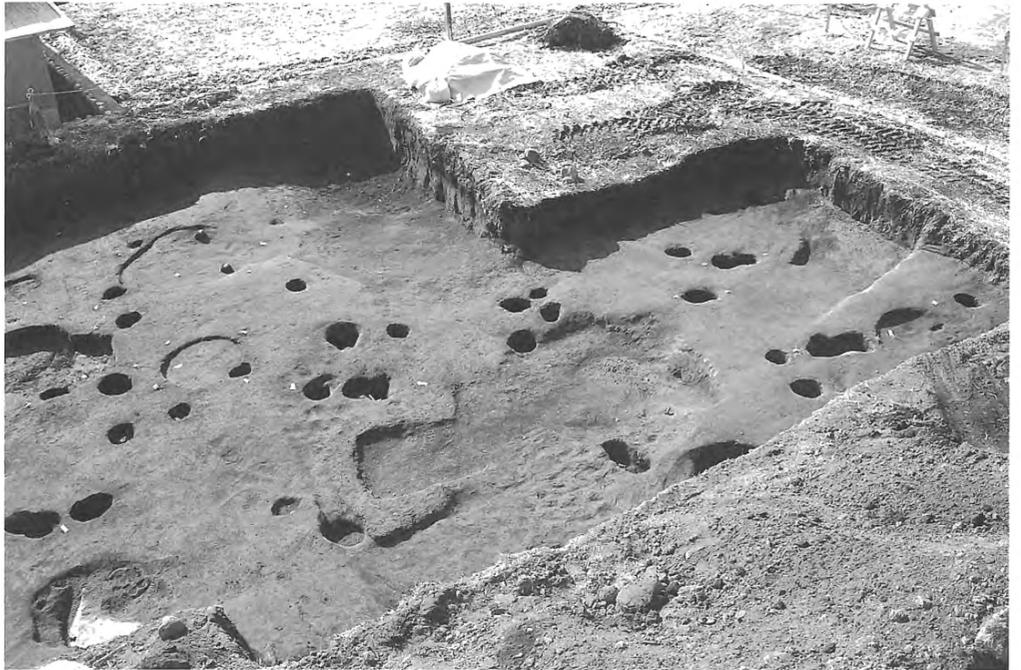


写真27 遺物分布状況①
(縄文時代・西より)



写真28 遺物分布状況②
(縄文時代・東より)



写真29 遺物出土状況①
(縄文土器)



写真30 遺物出土状況②
(縄文土器)



写真31 遺物出土状況③
(縄文時代・打製石斧)

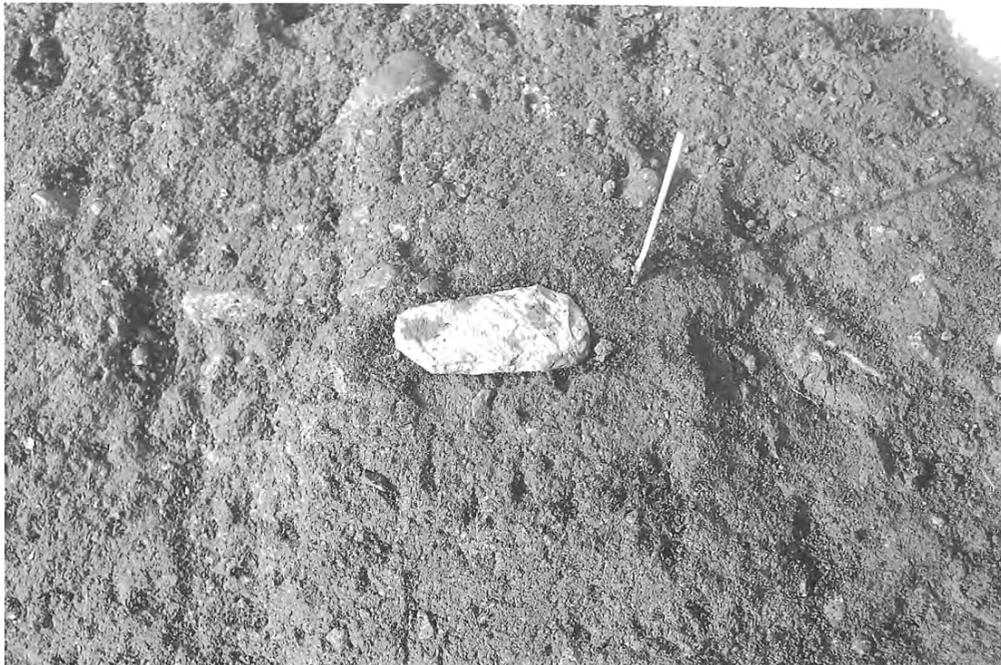


写真32 重機による埋め戻し



写真33 埋め戻し終了
(北西より)



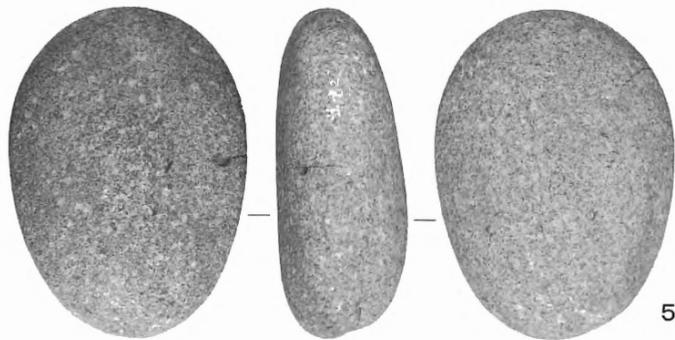
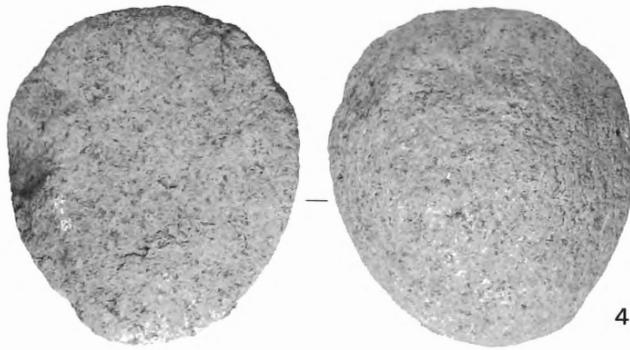
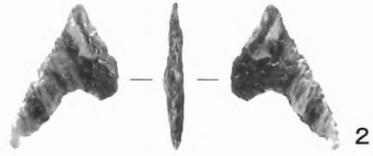
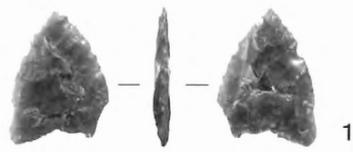


写真 34 縄文時代石器実測図(1)

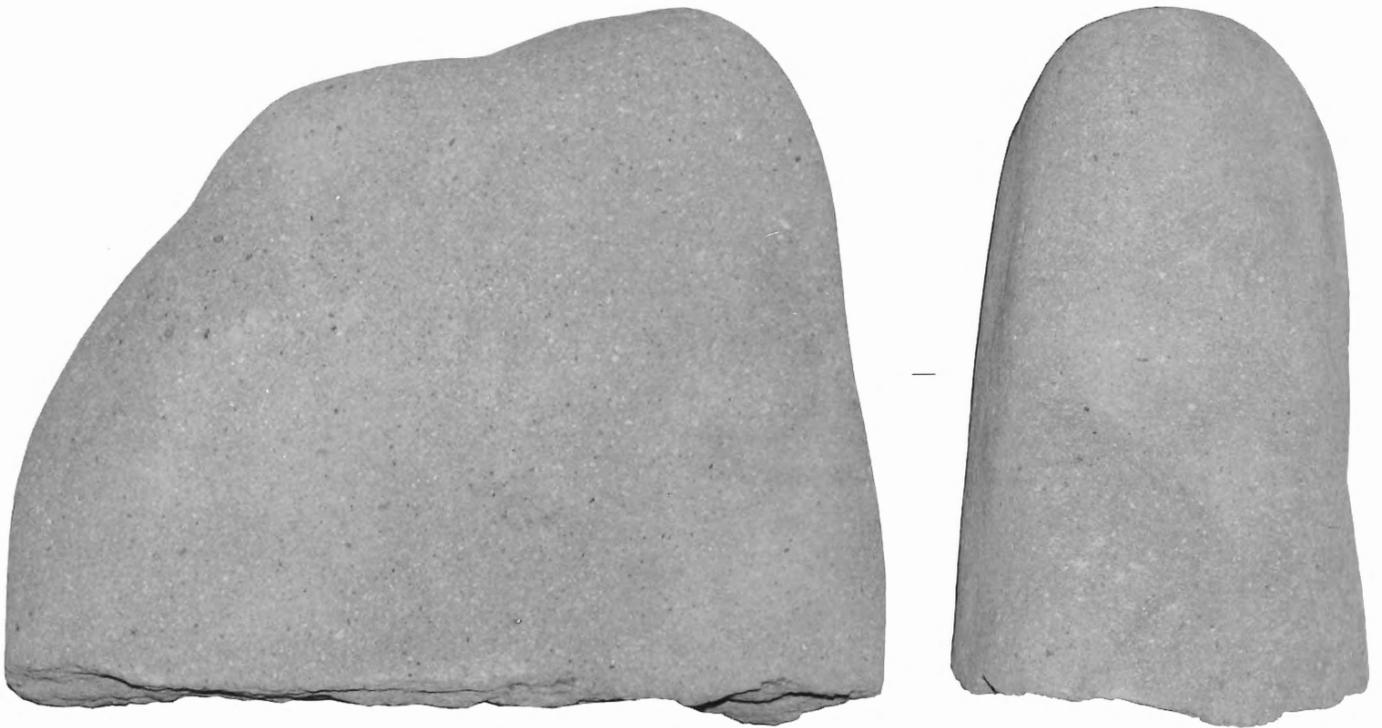
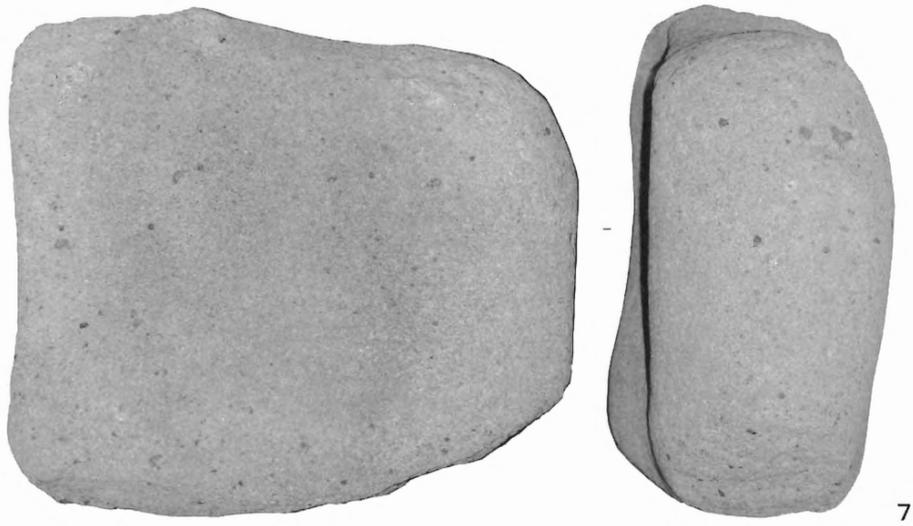
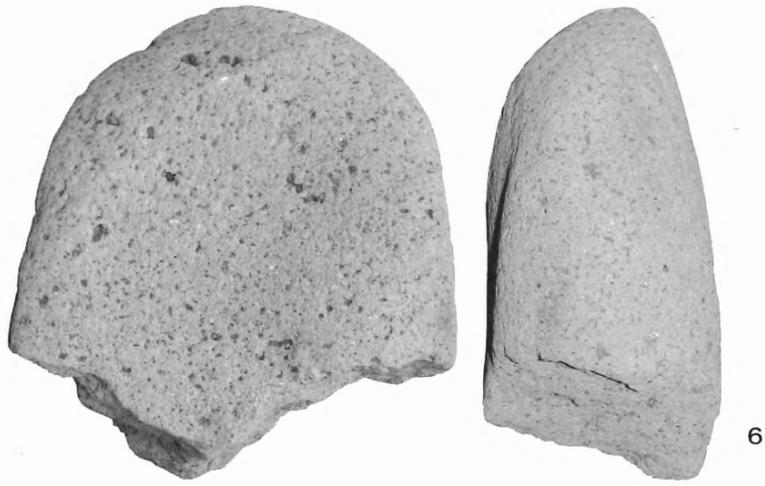
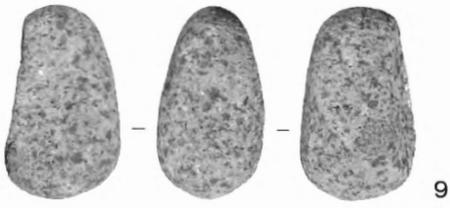
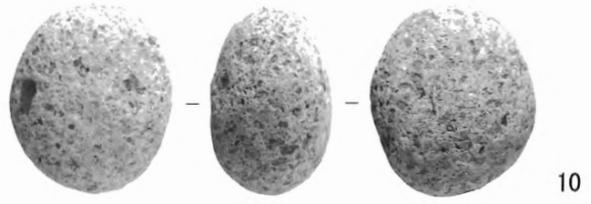


写真 35 縄文時代石器実測図(2)



9



10



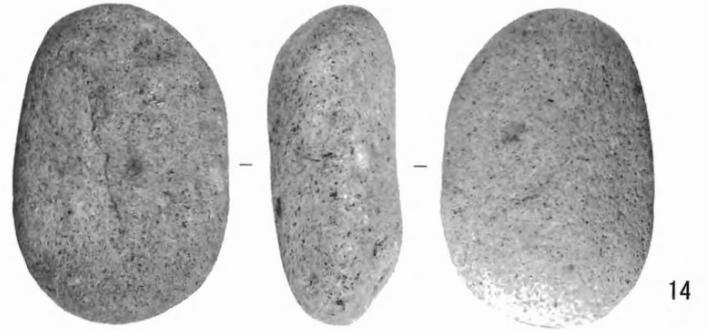
11



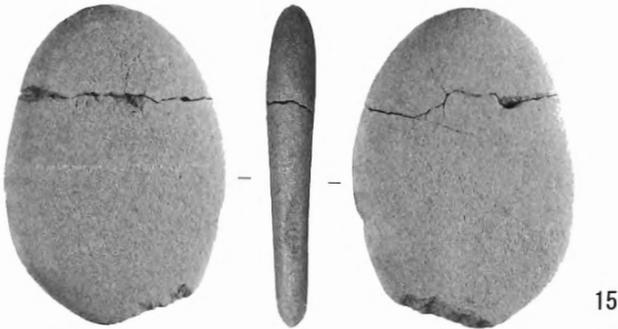
12



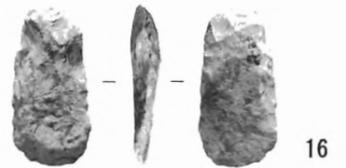
13



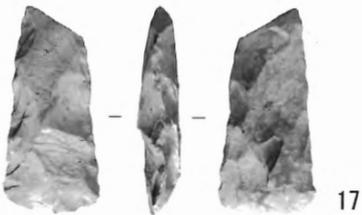
14



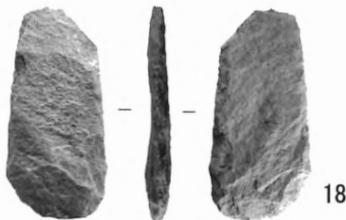
15



16



17



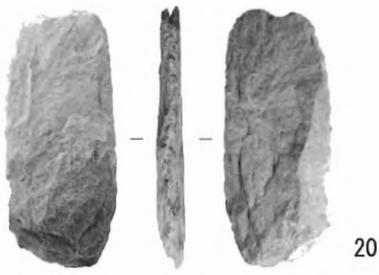
18



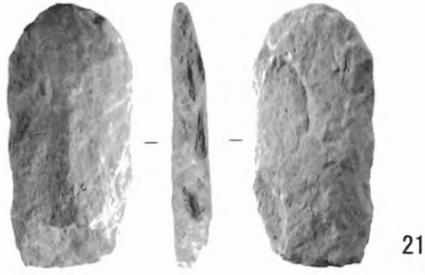
19

写真 36 縄文時代石器実測図(3)

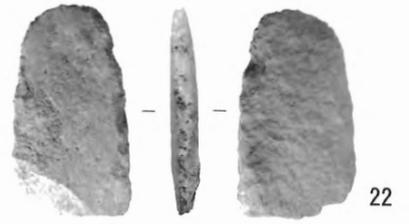




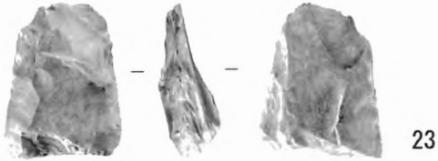
20



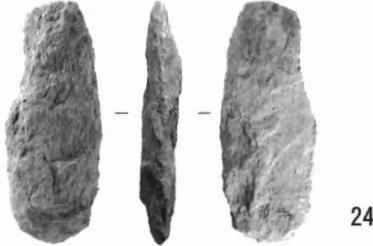
21



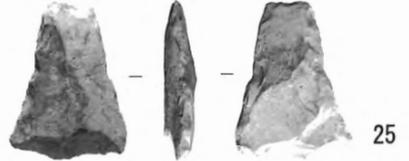
22



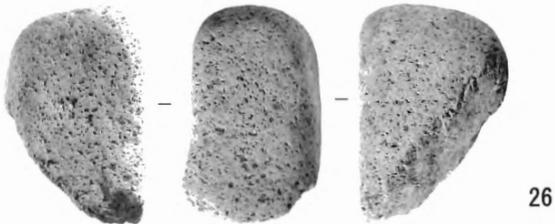
23



24



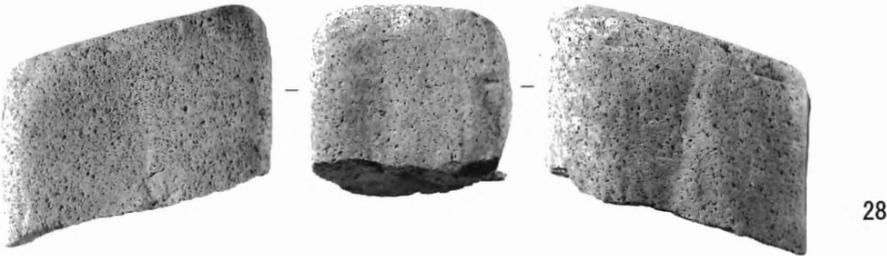
25



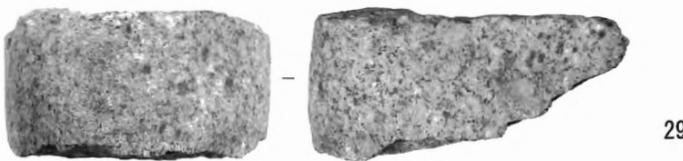
26



27



28



29

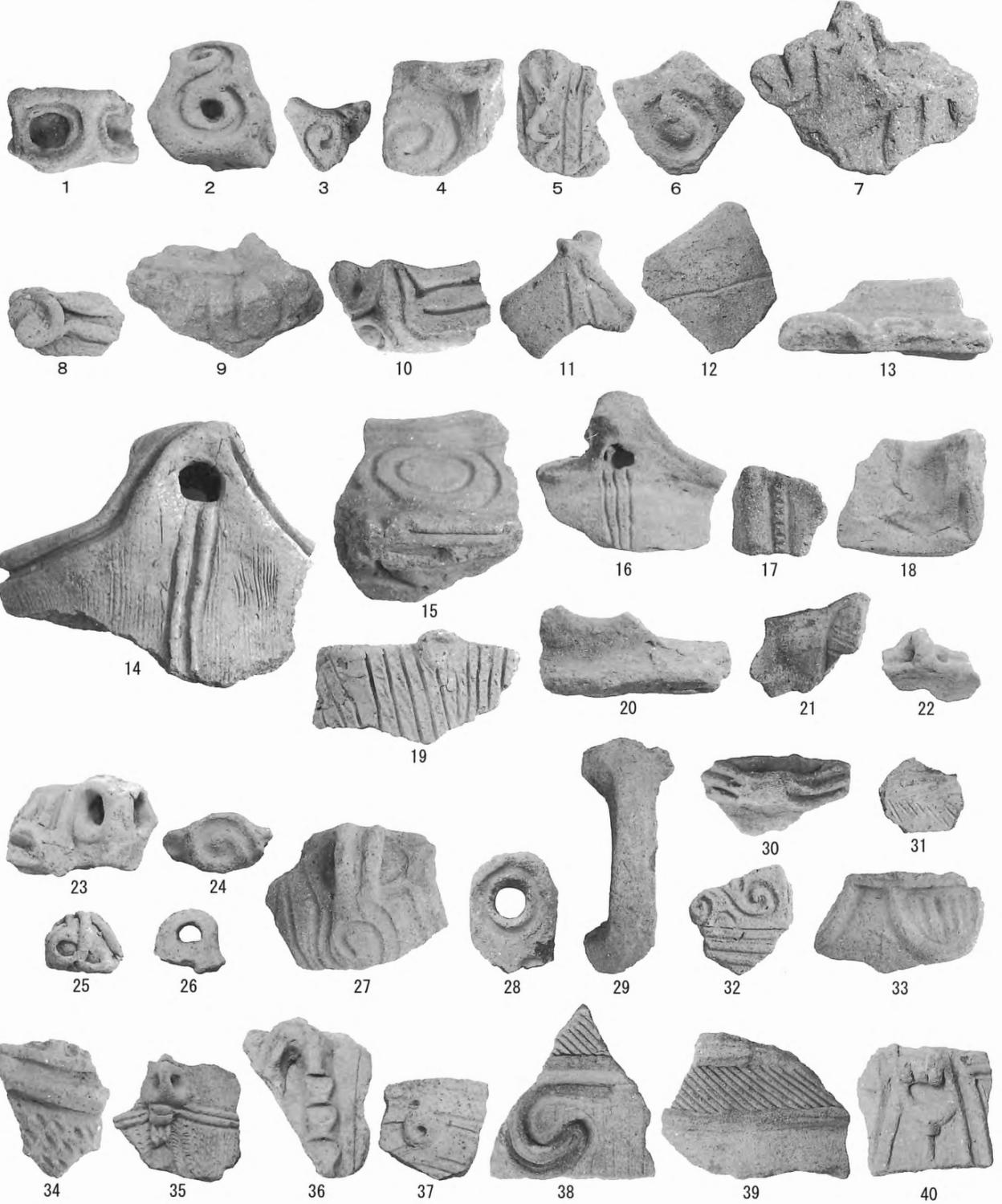


写真 37 縄文時代石器実測図(4)



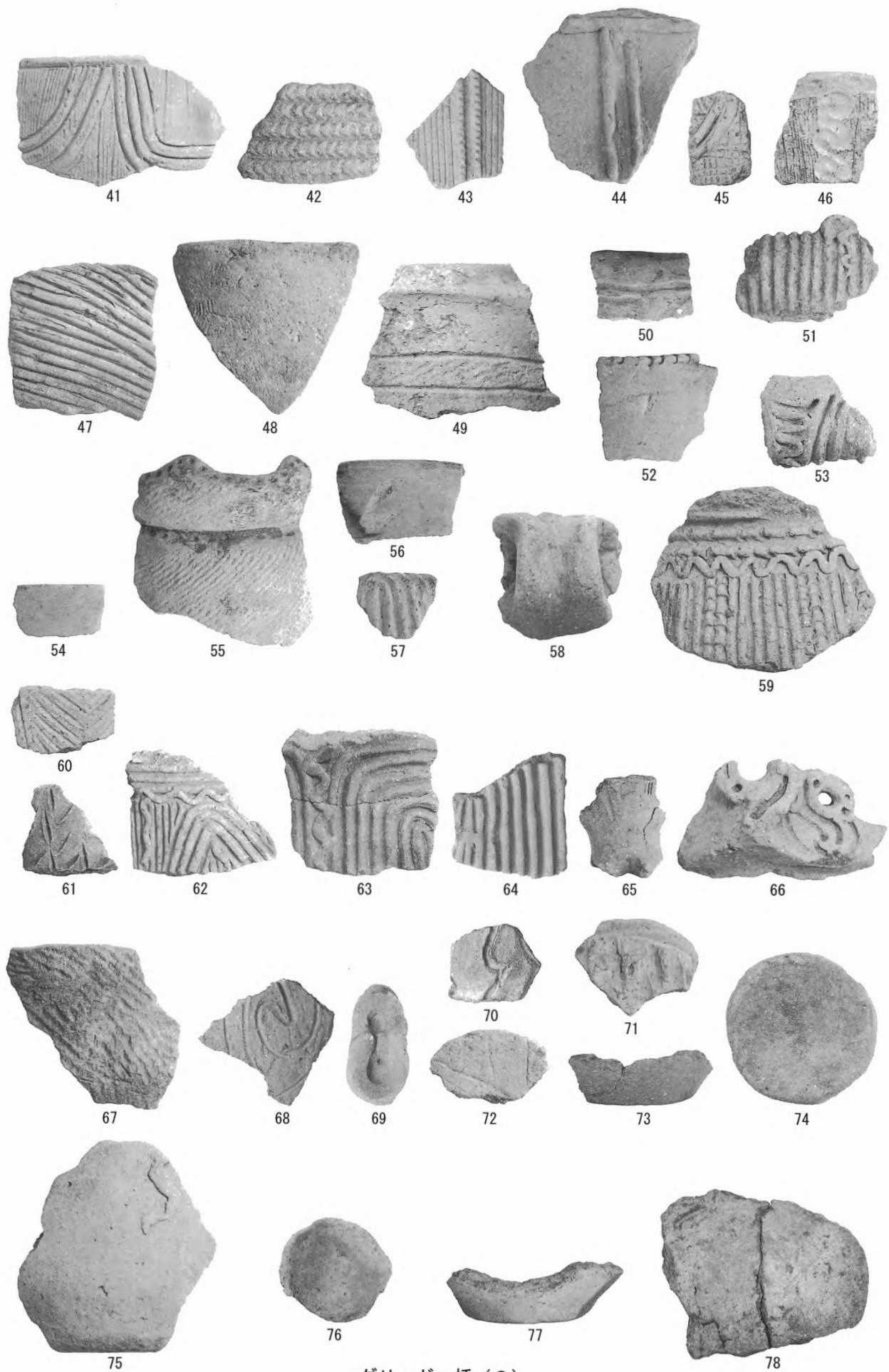
1号竖穴状遺構

2号土坑



グリッド一括(1)

写真38 出土土器(1)



グリッド一括 (2)

写真39 出土土器 (2)



1



2

中世土器

写真40 出土土器 (3)

辻 遺 跡

－芝川町消防団第1分団詰所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成16年3月26日 発行

編集・発行 芝川町教育委員会
〒419-0315
静岡県富士郡芝川町長貫1211-1
TEL (0544) 65-0402

印 刷 アサダ印刷株式会社